

『今やるべき事に 最善を尽くそう！』
～ 人生は一度きり 自分の道は自ら切り拓く！ ～



【令和6年1月1日 07:00 御殿場高原『時之栖』撮影】

令和7年6月4日
御殿場市危機管理補佐監

主 要 略 歴

御殿場市役所 危機管理補佐監

杉 本 嘉 章(すぎもと よしあき) (S36(1961). 5. 12生 64才)



◆ プロフィール

静岡県御殿場市出身(神山小・富士岡中・神奈川県立湘南高校・日本大学(文理学部))

昭和52年 陸上自衛隊少年工科学校入校 昭和55年 第1戦車大隊(駒門)

平成 5年 第6戦車大隊第2中隊長(宮城) 平成7年 (株)アサヒビール研修

平成14年 第12偵察隊長(群馬) ※新潟県中越地震(H16)

平成17年 イラク復興業務支援隊作戦幕僚(サマワ) 平成18年 統合幕僚学校学生(東京)

平成19年 新潟県中越沖地震現地調整連絡幹部(新潟) ※新潟県中越沖地震(H19)

平成20年 第71戦車連隊長(北海道)※ 有珠山地域担当(H20)、北海道胆振東部地震(H30)

平成22年 自衛隊高知地方協力本部長(高知) ※東日本大震災(H23)

平成24年 陸上自衛隊幹部学校主任教官(東京)

平成25年 東部方面総監部総務部長(東京)※伊豆大島豪雨災害(H25)、御嶽山噴火(H26)

平成27年 西部方面混成団長 兼 相浦駐屯地司令(長崎・佐世保市) ※熊本地震(H28)

平成29年 陸将補 早期退職

平成29年4月 御殿場市役所入庁 危機管理課長 平成30年 危機管理監(部長級)

令和 4年4月 現 職 ※令和元年台風19号(R1)、熱海市伊豆山土石流災害(R3)

平成17年 東京都北区立岩淵小学校PTA会長 平成19年東京都立飛鳥高校PTA副会長

平成24年 高知県観光特使 平成29年 長崎県観光特使 御殿場市国際交流協会会員

令和 元年 市民大学・シニア大学・御殿場看護学校講師(災害・国際看護学)、各種セミナー講師

令和 6年 台湾全国防災教育者国際実務研修講師 令和7年度 第3陸曹教育隊 中級陸曹課程講師

◆ 主要勤務歴・勤務地

⑪ イラク復興業務支援隊(H17.1~7)

☀台湾全国防災教育者国際実務研修(R6)

⑮ 第71戦車連隊長(H20)

⑧⑩⑫ 陸上幕僚監部(H10、H15)

⑤ 第6戦車大隊(S62)

⑭ 第12旅団司令部(H18)

⑨ 第12偵察隊(H14)

⑬ 統合幕僚学校一般課程(H17)

④ 幹部候補生学校(S61)

⑥ 幹部学校指揮幕僚課程(H6)

⑰ 幹部学校主任教官(H24)

⑱ 東部方面總監部総務部長(H25)

① 少年工科学校(S52)

②⑦ 富士学校(H8)

③ 第1戦車大隊(S56)

短期国外訓練・研修

米国・中国・韓国・タイ

⑲ 西部方面混成団長(H27)

⑯ 自衛隊高知地方協力本部(H22)

希望に燃えて武山へ！



陸上自衛隊 栄あれ !!



『中隊長要望事項』

今やるべき事に最善を尽くせ

第6戦車大隊第2中隊長



御殿場市災害対策本部の活動状況



台灣全國防災教育従事者ステップアップ対策国際実務研修：於 新北市



課目：部外講話

1 大課目：精神教育(訓話)

使命感及び徳操を養うとともに、部下に対する感化力を養成する。

2 中課目構成：部外講話

- (1) 中級陸曹としての使命感(資質)の涵養
- (2) 物事に関する視野の拡大
- (3) 災害派遣等における現場の調整者等として必要な徳操



杉本流にアレンジ

皆さんとの限られた時間の中で！



目と目で 通じ合う
そうゆう 仲になりたいわ ♪

講 話 項 目

I 災害現場の調整者として必要な徳操

(被災者の心情忘れぬ真心支援)

II 中級陸曹として必要な識能と資質

(自衛官として必要な6大資質:使命感と責任感、統率と指揮)

III 物事に関する視野の拡大

(人生に必要な3つのもの、守るべき宝、人生最大の喜び)

講 話 項 目

I 災害現場の調整者として必要な徳操

(被災者の心情忘れぬ真心支援)

II 中級陸曹として必要な識能と資質

(自衛官として必要な6大資質:使命感と責任感、統率と指揮)

III 物事に関する視野の拡大

(人生に必要な3つのもの、守るべき宝、人生最大の喜び)

災害派遣時、現場でどう活動するか？



我々に迫り来る「危機事案」

★ 拡大する「新たな危機」

- 1 地球の温暖化
- 2 グローバル化や情報化
- 3 科学技術の進歩
- 4 全地球的地殻変動

危機への迅速・的確な対応

★リスクマネジメント

事前の予防措置⇒『想像力』

★クライシスマネジメント

発生後の対応措置⇒『判断力』

新たな災害

パンデミック・インフルエンザ（新型コロナ）

風水害（ゲリラ豪雨・土石流）

竜巻・雷

自然災害

地震・津波

雪害

火山噴火

水飢餓

感染症

サイバーテロ

武力攻撃災害

緊急対応事態災害
（大規模テロ、ミサイル攻撃等）

大陸からの公害流入

NBC災害
（原発事故）

人為災害

日本人へのテロ（海外）

BSE（狂牛病）

航空機事故・座礁

交通事故・大火災
（山火事含む。）

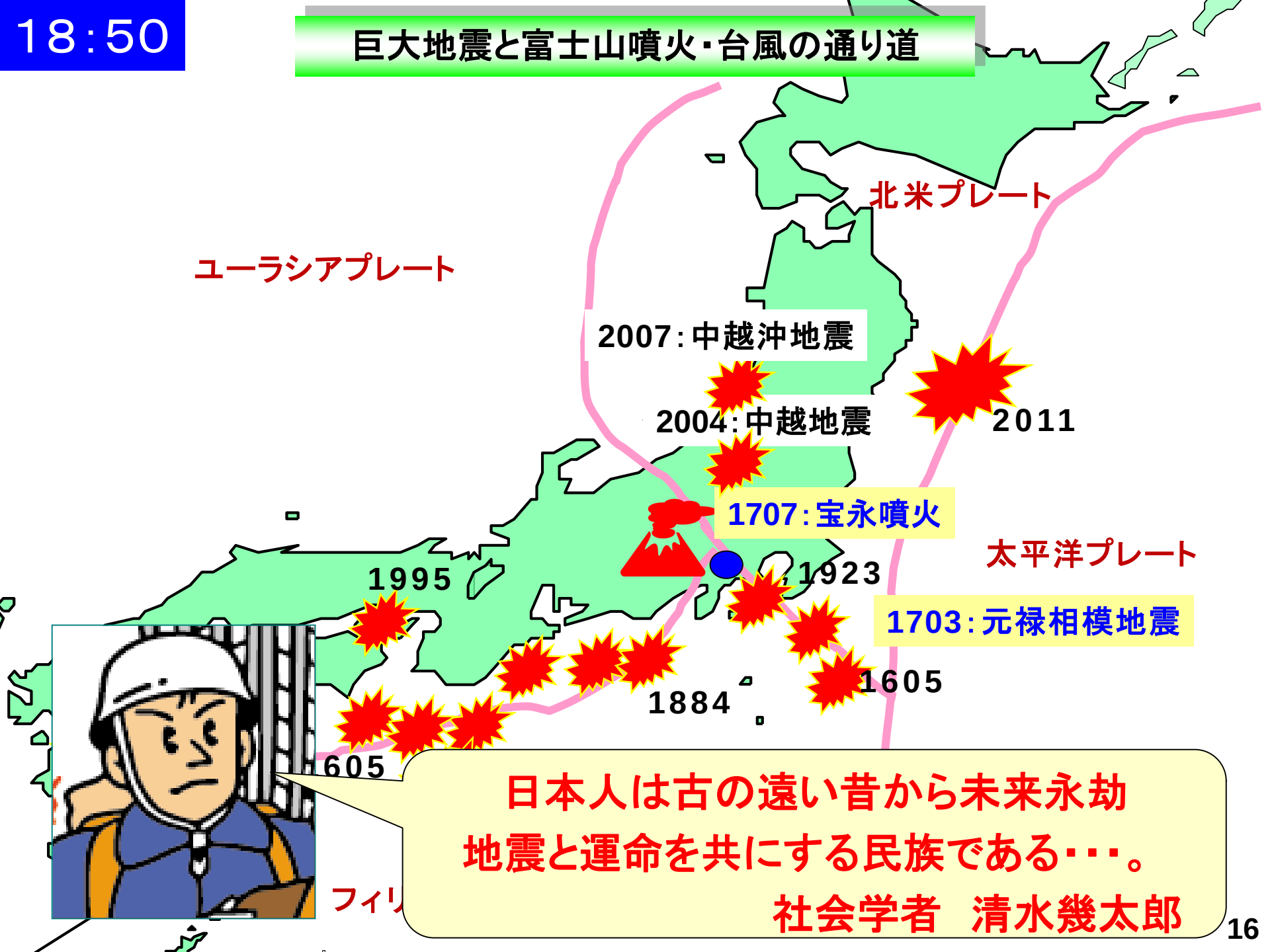
公害・環境破壊

従来の災害

環太平洋火山帯・台風の通り道



巨大地震と富士山噴火・台風の通り道



日本人は古の遠い昔から未来永劫
地震と運命を共にする民族である・・・。
社会学者 清水幾太郎

方程式＝災害から大切な命を守る！

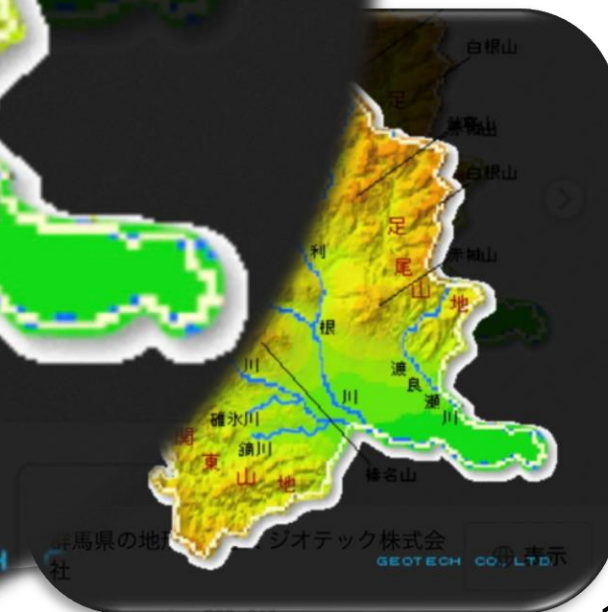
地を知り、危険を知り、我を知る

～ **静的地形** ・ **動的気象** ～

地形 × **気象** = **災害**

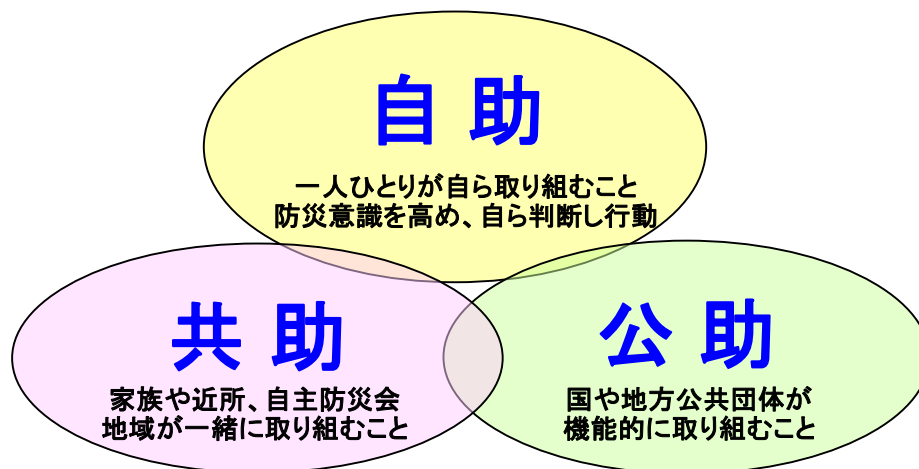
災害 × **人・物** × **時間** × **運** = **被害**

⇒ **いかに被害を防止・軽減するか**
事前研究・情報・即応



日本の災害対策の原則は『総合的な地域防災力』

- ① 住民一人ひとりが自ら行う防災活動による「自助」
 - ② 自主防災組織や消防団、学校など地域社会による「共助」
 - ③ 国・地方自治体、その他の公共機関による「公助」
- を含めた「総合的な地域の防災体制・能力」



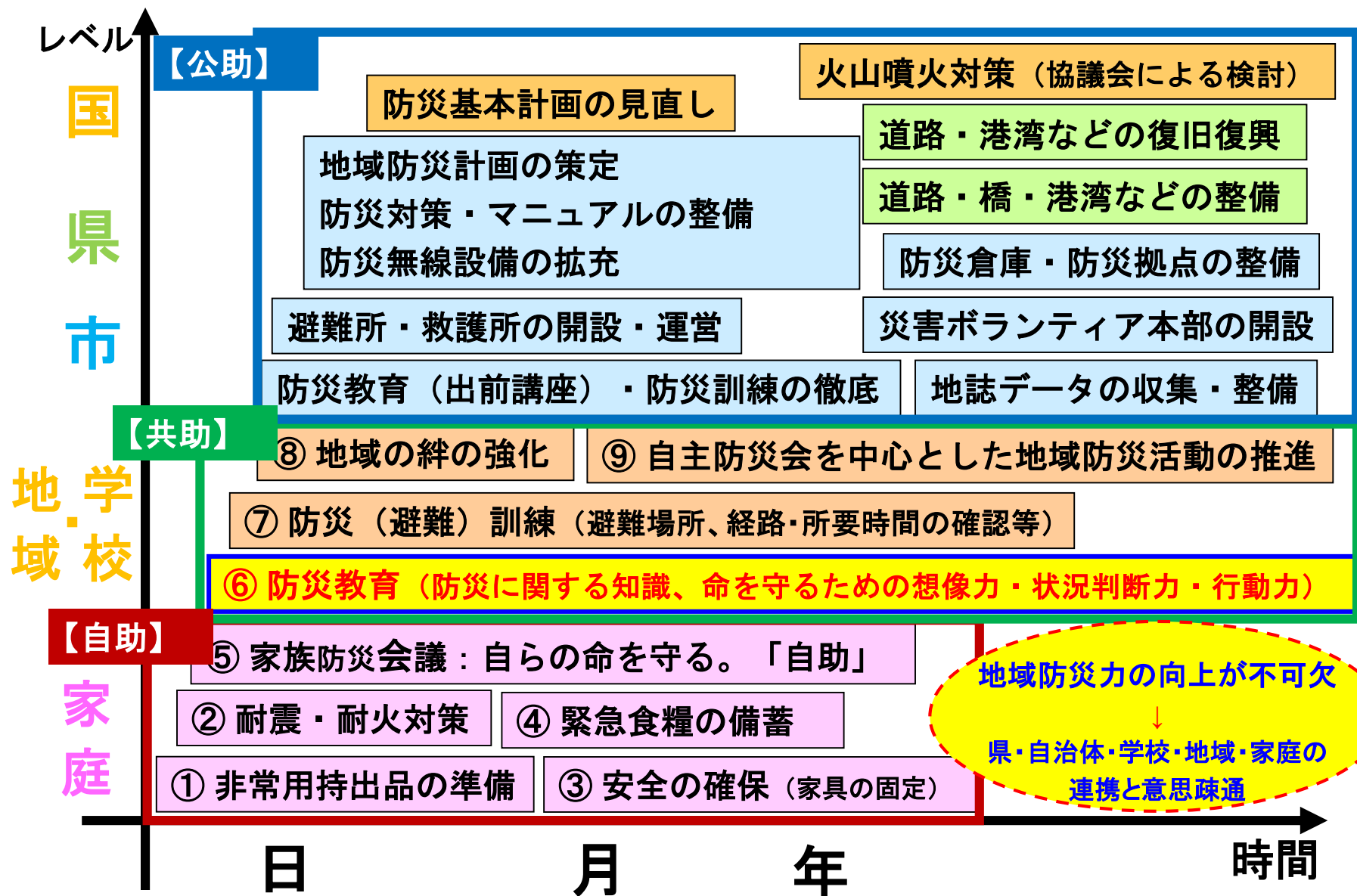
阪神淡路大震災時の救助比率『7:2:1』

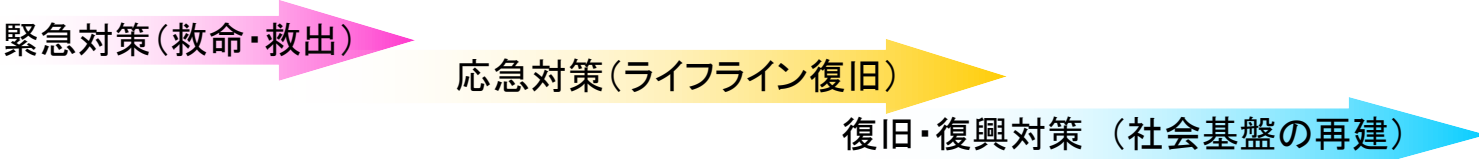
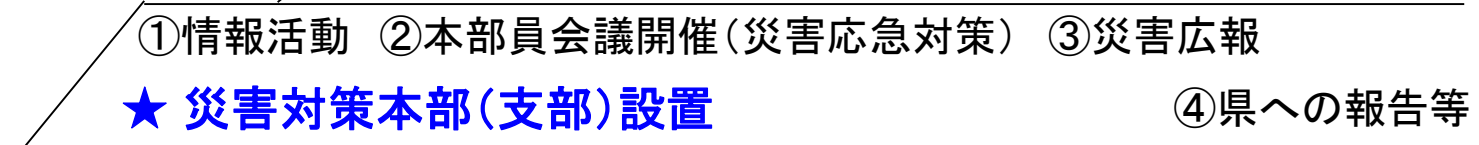
⇒ 災害は「自分事」(一人ひとりの防災力の向上)

地域・学校・企業などにおける「防災教育」の充実



自助・共助・公助の総合的な地域防災力



段 階 区 分	予 防	第Ⅰ期	第Ⅱ期	第Ⅲ期	第Ⅳ期
		即時対応期	応急対応期	本格対応期	復旧・復興期
		(発災当日)	(1～3日程度)	(3日～1W)	(1W～数年)
状 況	★ 前震	★ 地震発生 被害状況の判明／避難所運営 ★ ライフライン(電気・水道・ガス・電話・交通等)寸断 ★火 災 ★津 波 // 富士山噴火			
災 害 対 応	防災教育 防災訓練 防災会議 ・ 非常時の 備 え	◆ 自助 (先ずは自分自身で身を守る！) ◆ 共助 (地域の人々がお互いに助け合う！) ◆ 公助 (行政を中心とした様々な対応、大規模災害では行政機関も被災) 			
災 害 対 策 本 部 の 行 動	規則整備 本部付班 図上訓練 総合訓練	◆市役所職員参集 ●避難所・救護所の設置・運営 			
活 動 内 容	防災訓練 ・ 待機任務	● 初動体制確立 ● 人命の救助 ● 避難所の開設	● 避難所の運営 ● 行方不明者搜索 ● 2次被害防止	● 被災者生活支援 ● 復旧支援等 ● 仮設住宅建設	● ライフラインの復旧 ● 生活再建

御殿場市災害対策本部の活動状況



各支部災害対策会議の状況



御殿場支部(15区)



富士岡支部(15区)



原里支部(10区)



玉穂支部(7区)



印野支部(3区)



高根支部(9区)

地震災害における期区分の考え方

期 間 の 安	発 災 ↓	1 日 日 (2 4 時 間)	3 日 (7 2 時 間)	1 週 間	1 カ 月	数 カ 月	6 カ 月
主 要 応 急 対 策							
期 の 区 分							
意 義							

即時対応期(発災から1日程度)
 災害発生に即応して**災害対策本部を設置し**、全般状況の把握、職員の参集、防災関係機関との連絡等による**初動体制の確立**と、地域所在の消火、救助の部隊等による被災現場等からの避難誘導や**救助、消火、避難所・救護所開設などを優先して実施**する期間

応急対応期(1日～3日(72時間)程度)
 逐次投入される**救援部隊等をもって、消火、人命の救出・救助を優先(助かる命を助ける)**、施設等の最小限の機能を取り戻すための応急の復旧活動を行う期間⇒ 最も医療ニーズの高まる時期

本格対応期(3日～数か月)
 人命救助及び行方不明者の捜索を継続しつつ、ライフラインの復旧の推進及び仮設住宅の建設等、被災者の生活救援支援を本格的に実施する期間(助かった命を守る)⇒ **助かった命を守る！**

復旧・復興期(1週間～数年)
 ライフライン、施設、設備等を復旧し、生活を再建させて、逐次復興へと移行する期間

地震発生に伴い発生する被害・事象・影響

地震の発生（規模・時期気象 等）

（状況不明）

被害の規模の予測

対応体制の構築

（もしかしたら？）



大地震



（大津波）



コンビナート・
原発施設等損壊

建築物倒壊・流失

崖崩れ、宅地崩落

液状化・地盤沈下

ため池決壊

文教施設損壊

医療施設損壊

道路・橋梁損壊

河川施設損壊

港湾施設損壊

空港施設損壊

鉄道施設損壊

砂防施設損壊

清掃施設損壊

農地流失・埋没

ライフライン損壊

船舶流失・損壊

家屋等流失

養殖施設の流失

農地へ海水流入

施設倒壊

火災・炎上・爆発

汚染物質の流出

死者・行方不明者

火災の発生

負傷者の発生

避難者の発生

庁舎・職員の被災

学校施設閉鎖

医療機能の低下

道路の不通

鉄道の運行停止

港湾・空港閉鎖

瓦礫の発生・散乱

断水

停電

電話の不通

ガス供給停止

下水道使用停止

農漁業基盤の喪失

土壌・作物の汚染

農作物等の汚染

海洋（水）汚染

工場・発電停止

社会的不安の増大

震災孤児の発生

帰宅困難者の発生

孤立地域の発生

行政機能の不全

→ 応急対応の遅れ

避難所開設制約

応援部隊進出遅延

→ 救助活動の遅延

→ 消火活動の遅延

→ 医療活動の制約

救援物資輸送遅延

遺体処理の制約

瓦礫処理の所要大

事業所閉鎖・移転

流通機能のマヒ

燃料の不足

農漁業活動の停止

外国人の国外退去

風評被害

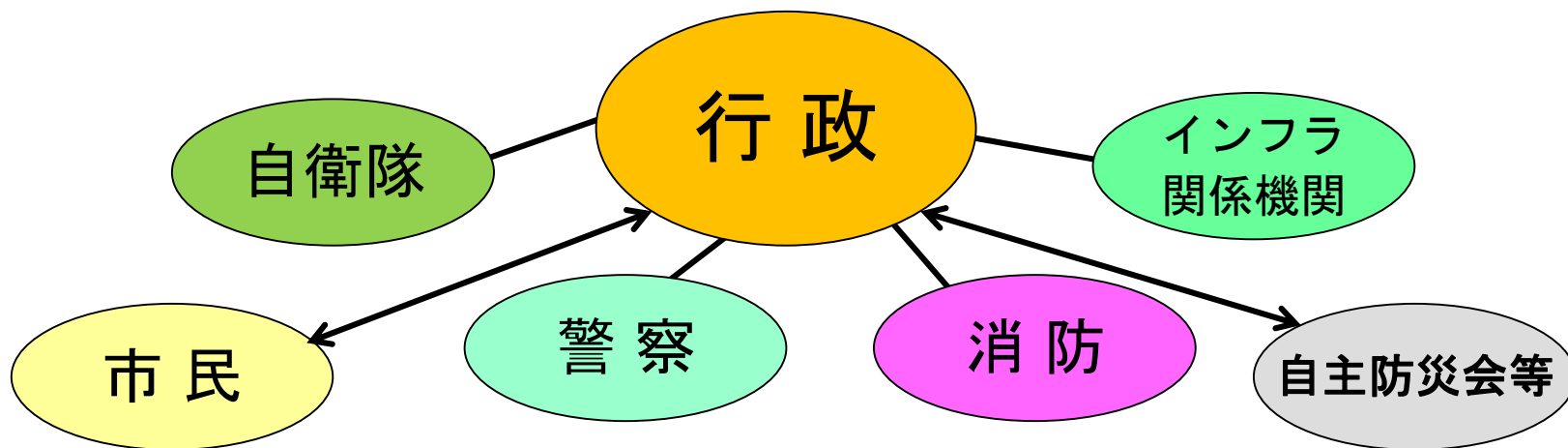
資機材・電力不足

広地域立入禁止

執るべき災害応急対策

災害対応は「行政の責任」

- ◆ 行政の統制の下、消防、警察、自衛隊、自主防災会及びインフラ等関係機関がそれぞれの特性や能力を最大限に発揮して対応
- ◆ 災害発生に際して、速やかに初動体制を確立するとともに、人命救助、行方不明者の搜索、避難所・救護所の開設及びライフラインの途絶に伴う給水・給食支援・仮設トイレの設置の民生支援等災害時応急対策を優先に対応 → ※災害時業務予定表



主要な災害応急対策

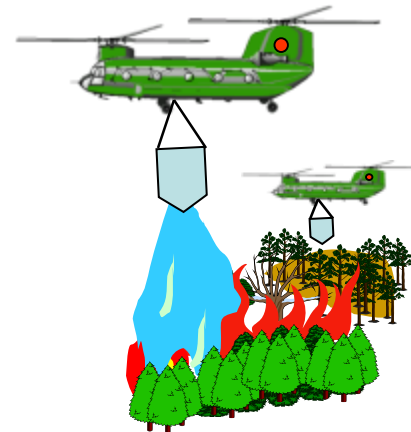
搜索・救助



物資輸送



消火活動



避難所の開設



患者空輸



ライフライン復旧活動



救護所の開設



災害対策本部

災害ボランティア本部



入浴支援

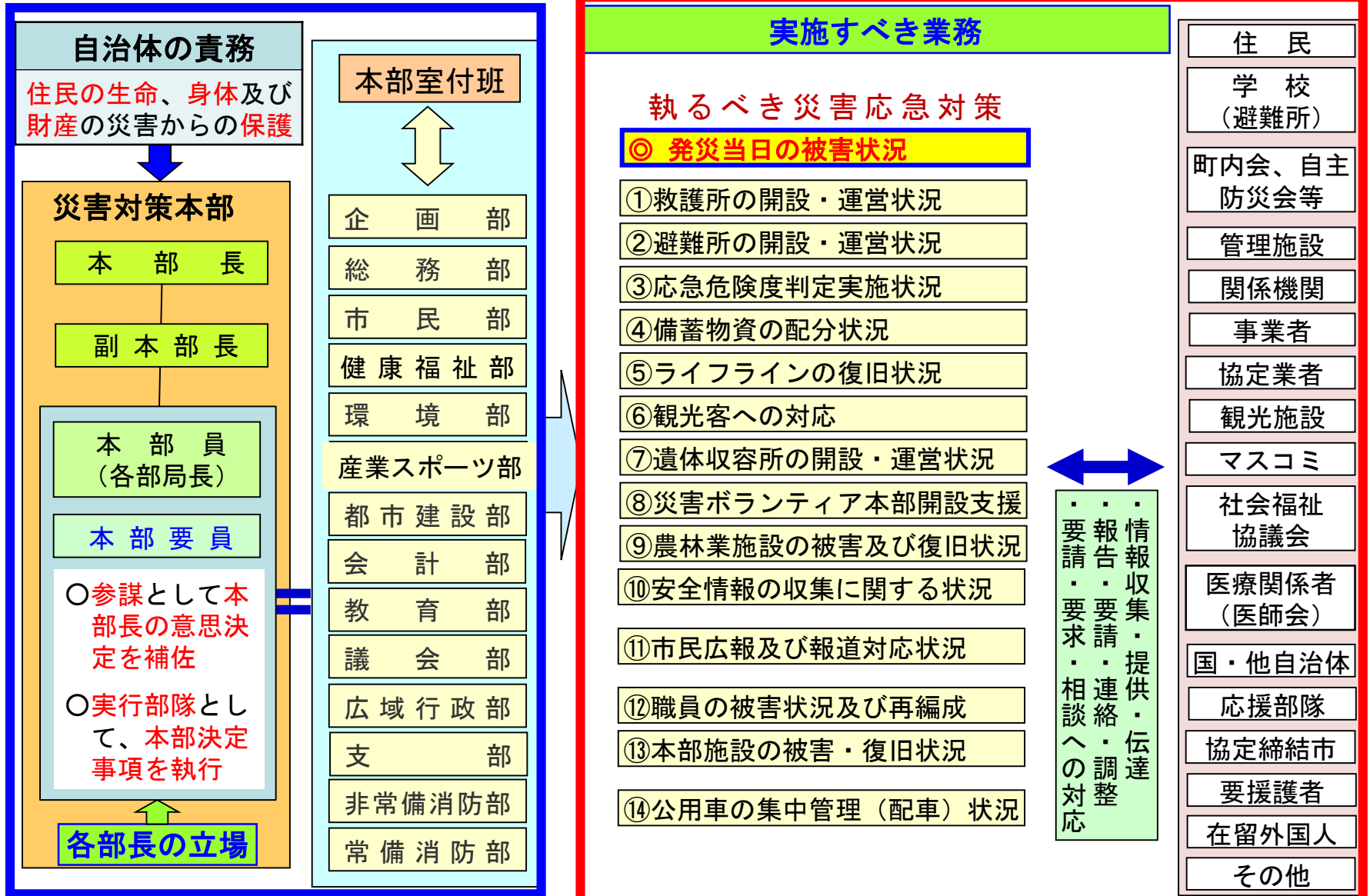


給水・給食支援



災害対策本部の執るべき災害応急対策

全部・要員が丸となって災害応急対策＝住民の生命、身体、財産の保護を遂行



■ 自衛隊の災害対処能力



機動力



マンパワー



自己完結能力



野外活動能力

災害派遣における自衛隊の活動

要請派遣

都道府県知事等から要請を受けて行う派遣

救助・救命



給水・給食支援



入浴支援



物資輸送支援

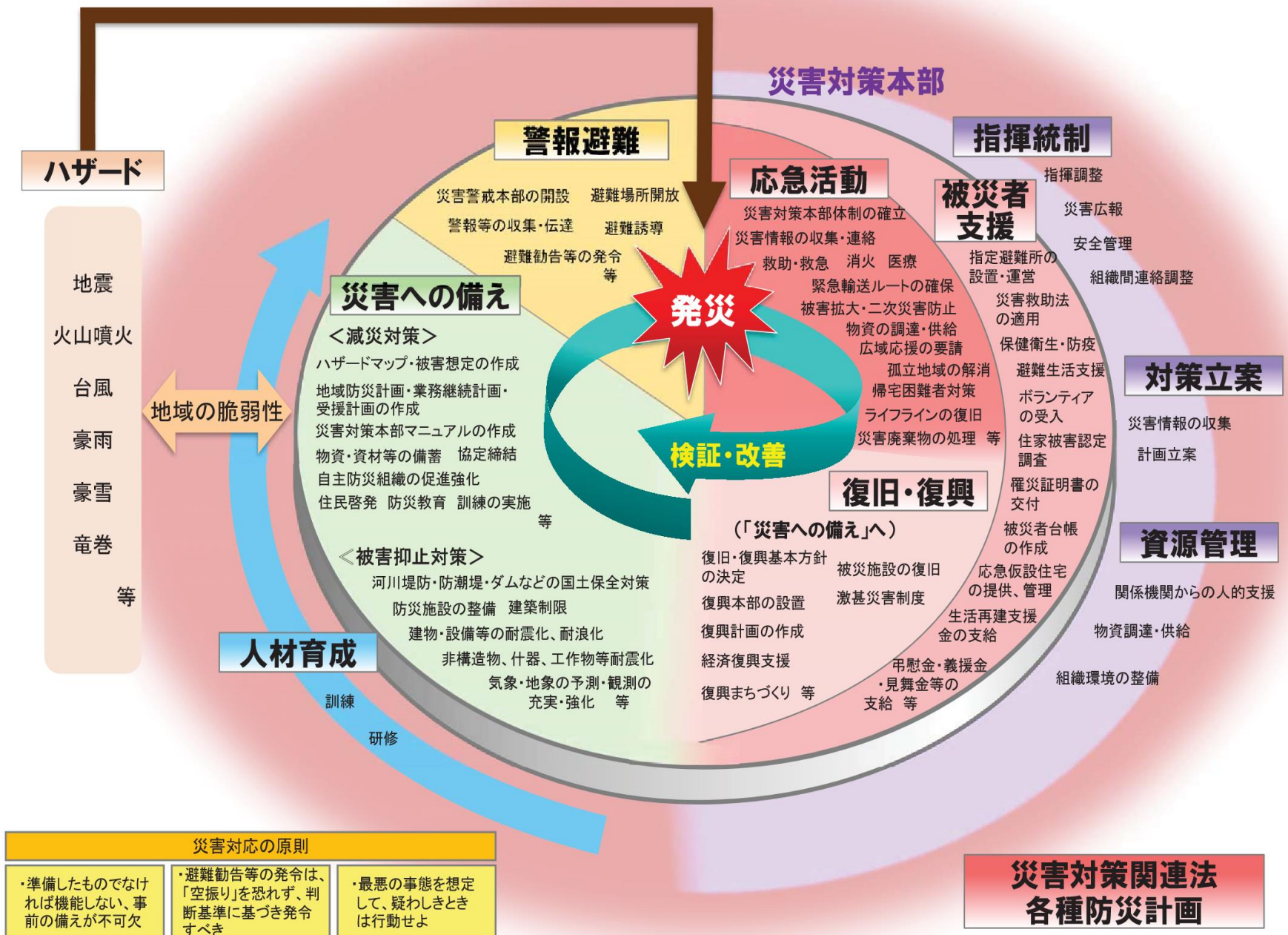


活動の例

- 被災者の「人命救助」を第一優先、じ後「行方不明者の搜索活動」へ
- 被災者の生活の安定を確保するための生活(民生)支援
 - ・ 給水支援—飲料水や生活用水の提供
 - ・ 給食支援—非常用糧食の提供や炊き出し
 - ・ 入浴支援—野外入浴セットや艦艇、駐屯地・基地等の隊員浴場の開放
 - ・ 衛生支援—被災地での応急救護所の開設や巡回診療
- 物資輸送支援—被災地域への様々な救援物資の輸送

活動の例

災害対策の流れ



	実施項目	細部実施内容	担 当
平 時	①災害の備え	〈減災対策〉 ① ハザードマップ・被害想定 の作成 ② 地域防災計画・業務継続計画・受援計画 の作成 ③ 災害対策本部 マニュアルの作成 ④ 物資・資材等の備蓄 ⑤ 災害協定締結 ⑥ 住民啓発・防災教育・訓練の実施	◎危機管理課
		〈被害抑止対策〉 ① 河川堤防・防潮堤・ダムなどの国土保全対策 ② 防災施設の整備、建築制限 ③ 建物・設備等の耐震化 ④ 非構造物、工作物等耐震化 ⑤ 気象・気象の観測・観測の充実・強化	◎都市建設部 ⑤ 総括班
	②警報避難	① 災害警戒本部の開設 ② 警戒等の収集・伝達 ③ 避難指示等発令 ④ 避難場所開放の指示 ⑤ 避難誘導	◎総括班
	③人材育成	① 訓練 ② 研修	◎危機管理課
災 害 時	④応急活動	① 災害対策本部体制の確立(危機管理課⇒総括班) ② 災害情報の収集・連絡(総務課⇒情報班) ③ 救助・救急、消火・医療(消防本部、健康推進課・救急医療課⇒医療救護班) ④ 緊急輸送ルートの確保(道路河川課・管理維持課⇒道路河川班) ⑤ 被害拡大・二次災害防止の指示(危機管理課) ⑥ 物資の調達・供給(避難所・避難所外被災者含む。)(農政課⇒救援物資班) ⑦ 広域応援の要請(危機管理課) ⑧ 孤立地域の解消(危機管理課) ⑨ 帰宅困難者対策(観光交流課⇒帰宅困難者支援班) ⑩ ライフラインの復旧(都市計画課・管理維持課⇒道路河川班) ⑪ 災害廃棄物(災害ごみ)の処理(環境課⇒清掃・衛生班)	① 総括班 ② 情報班 ③ 消防本部・医療救護班 ④ 道路河川班 ⑤ 総括班 ⑥ 救援物資班 ⑦⑧ 総括班 ⑨ 帰宅困難者支援班 ⑩ 道路河川班(管理維持) ⑪ 清掃・衛生班
	⑤被災者支援	① 指定避難所の設置・運営(未来プロジェクト課⇒避難所支援班、ペット担当:環境課⇒清掃・衛生班) ② 災害救助法の適用(社会福祉課・災害救助法担当業務区分) ④ 避難生活支援(社会福祉課・長寿福祉課) ③ 保健衛生・防疫(健康推進課・救急医療課⇒医療救護班) ⑤ ボランティアの受入(本部立上げ:社会福祉協議会との連携)(市民協働課⇒地域支援班) ⑥ 住宅被害認定調査 ⑦ 罹災証明書の交付 ⑧ 被災者台帳の作成(税務課・課税課⇒調査記録班) ⑨ 応急仮設住宅の提供、管理(建築住宅課⇒建築住宅班) ⑩ 生活再建支援金の支給(社会福祉課⇒救助班) ⑪ 弔慰金・義援金・見舞金等の支給(総務課⇒総務班、社会福祉課⇒救助班、会計課⇒会計班) ⑫ 遺体措置・対応(市民課・国保年金課⇒埋火葬班) ⑬ 相談室(被災者なんでも相談)の設置(くらしの安全課⇒市民相談班)	① 避難所支援班 ②④ 救助班 ③ 医療救護班 ⑤ 地域支援班 ⑥⑦⑧ 調査記録班 ⑨ 建築住宅班 ⑩ 救助班 ⑪ 総務班(支援)・会計班 ⑫ 埋火葬班 ⑬ 市民相談班
	⑥復旧・復興	① 復旧・復興基本方針の決定 ② 復興本部の設置 ③ 復興計画の作成 ④ 経済復興支援 ⑤ 復興まちづくり ⑥ 被災施設の復旧 ⑦ 激甚災害制度(都市計画・都市整備・建築住宅・公園緑地・建築住宅・道路河川・管理維持課)	◎都市建設部 ・総括班
	⑦指揮統制	① 指揮調整(危機管理課) ② 災害広報(魅力発信課⇒広報班) ③ 安全管理 ④ 組織間連絡調整	総括班、 ② 広報班
	⑧対策立案	① 災害情報の収集(危機管理課) ② 計画立案(危機管理課)	総括班
	⑨資源管理	① 関係機関からの人的支援 ② 物資調達・供給(農政課) ③ 組織環境(庁舎)の維持管理(管財課⇒管財班)	② 救援物資班 ③ 管財班

新潟県中越沖地震の教訓

『平成』における自然災害・事件



⑰ 北海道胆振東部地震

⑯ 台風21・24号

⑯ 西日本豪雨

⑮ 大阪北部地震

⑫ 熊本地震

⑫ 御嶽山噴火

⑪ 広島市土砂災害

⑪ 伊豆大島土砂災害

⑩ 長野県北部地震

⑨ 東日本大震災

⑧ 新燃岳噴火

⑦ 駿河湾地震

⑥ 新潟県中越沖地震

⑤ 新潟県中越地震

④ 有珠山噴火

② 阪神淡路大震災 ③ 地下鉄サリン事件

① 雲仙普賢岳火砕流

元年 5 10 15 20 25 30 令和へ

新潟県中越沖地震の概要

- 1 発生日時: 平成19年7月16日(月) 10時13分頃
- 2 震央地名: 新潟県上中越沖
- 3 震源の深さ: 約17km
- 4 地震規模: マグニチュード6.8
- 5 各地の震度: 震度6強—新潟県柏崎市、長岡市、刈羽村
震度6弱—新潟県上越市、小千谷市、出雲崎町
- 6 津波: 津波注意報(同日11時20分解除)
- 7 被害: 3年前の新潟県中越大震災の苦難の記憶覚めやらぬ新潟県に、再び大きな被害をもたらした。
県下20の市町村が被災し、15人の尊い生命が失われ、
重軽傷者2千名を超えたほか、ピーク時には1万2千人
以上の方々が避難所での不自由な生活を余儀なくされた。

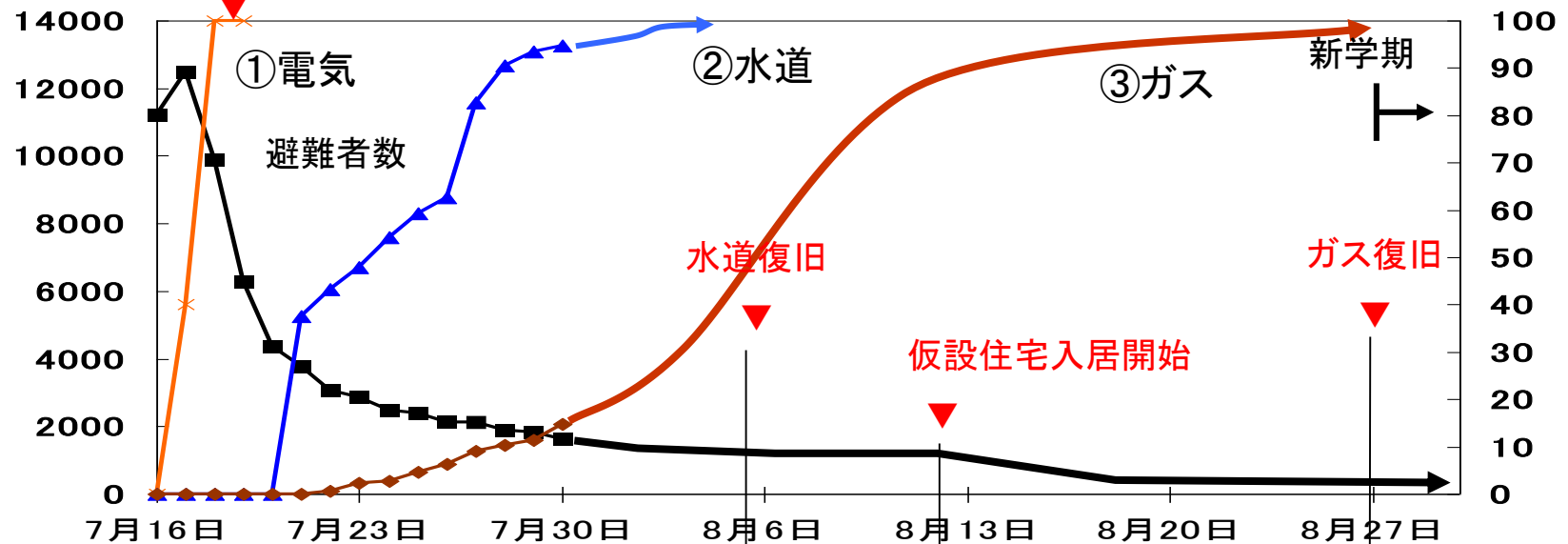
災害派遣活動の概要 (新潟県中越沖地震)



中越沖地震における民生支援所要の変化と活動実績

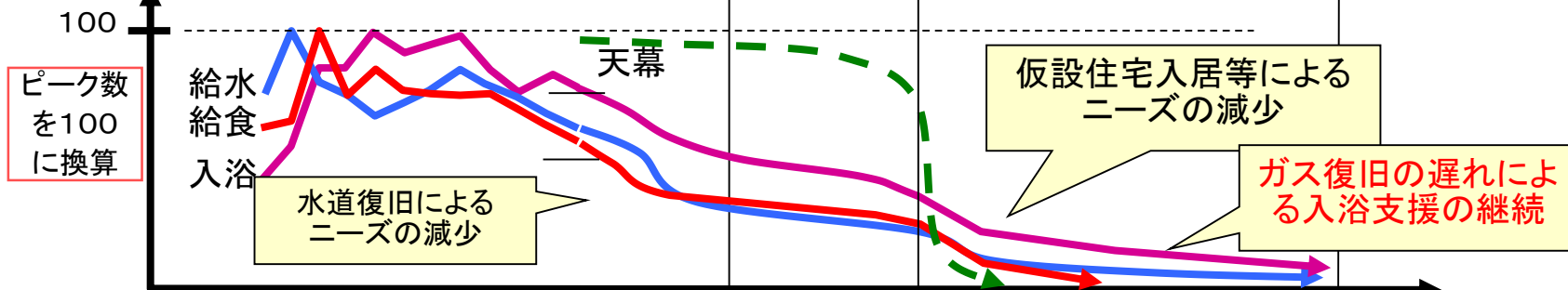
避難者(人) 電気復旧(2~4日)

復旧率(%)

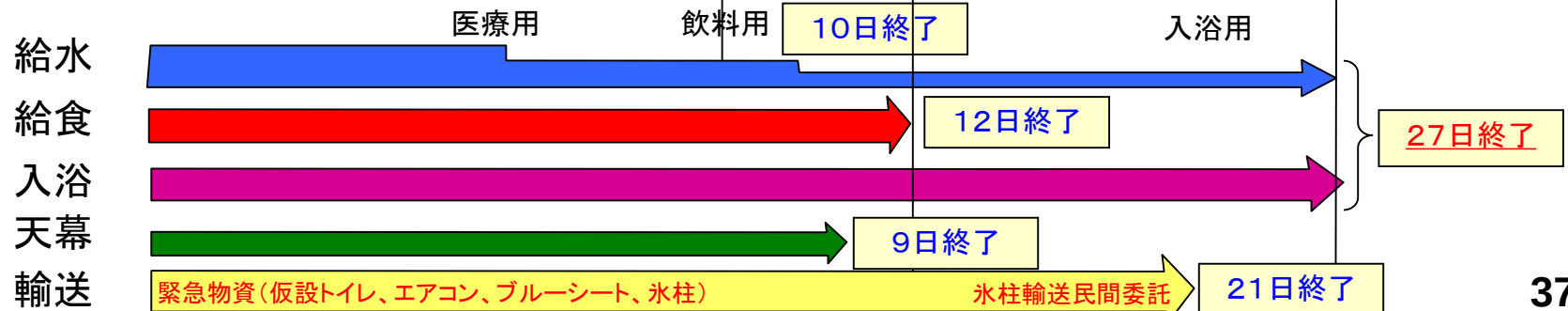


状況推移

民生支援
所要変化



活動実績



生きる

―避難所から

東日本大震災では、被災から1カ月が過ぎても
15万人以上が避難所生活を送っている。

東北の春はまだ寒く、燃料不足、物資不足のなかで
凍える夜が続く。その上に、
激しい余震が襲いかかる。

被災者を支えているのも、また被災者だ。

女の子は葉っぱのみそ汁を大切そう
に飲んだ。避難所では温かい食べ物
は貴重だ＝15日、宮城県女川町



「生き残った時から、
新たな苦しみが始まる・・・。」

男性は、津波で亡くした長男と、行方
不明の妻の写真をじっと眺めていた
＝18日、宮城県名取市

避難所での不自由な生活

Q:避難所の運営とプライバシー保護は？

避難所での過酷な生活：
個人の自由が利かない中で
食事、トイレ、洗面も全て順番待ち・・・



避難所の 設備・備品例

Shelter

トイレ

仮設トイレ p83.p84



マンホールに直接汚水を流せるタイプや車イスでも利用できる仮設トイレもあります。

脱臭剤 p84



除菌・消毒剤 p38



様々な人が集まる避難所では特に衛生面に注意。入口付近、トイレ・洗面所には必ず常備しましょう。

投光機 p34



発電機 p35



避難所では原則として火が使えません。電子レンジやポットをみんなで使える場所に用意しましょう。

メガホン p72



給水容器 p61



給水車



給食・給水

大型炊き出し器・炊飯用具 p63~p65



給食用具 p62



テント p73.p74



浄水器 p66

プールの水などを浄水します。



貯水槽 p78

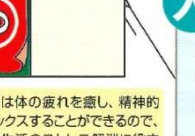


炊事場

赤外線暖房器 p78



貯水槽 p78



お風呂は体の疲れを癒し、精神的にリラックスすることができるので、避難所生活のストレス解消に役立ちます。

入浴・睡眠

肌着セット、オムツ p39



ウェットタオル p38



マット、カーペット、毛布、簡易ベッド、シュラフ p75~p77



間仕切り p75



担架ベッド p32



救急箱 p37



プライバシー

簡易トイレ p81.p82



更衣室 p75

更衣室を設置すれば着替えの他に、簡易トイレとの組み合わせで室内トイレができ、外のトイレを使用することが難しい方などのプライバシーも守れます。



消火器、三角消火バケツ p25



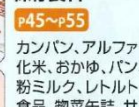
ライト、ラジオ p67~p72



保存飲料水 p56



保存食料 p45~p55



食事

栄養補助食品 p48



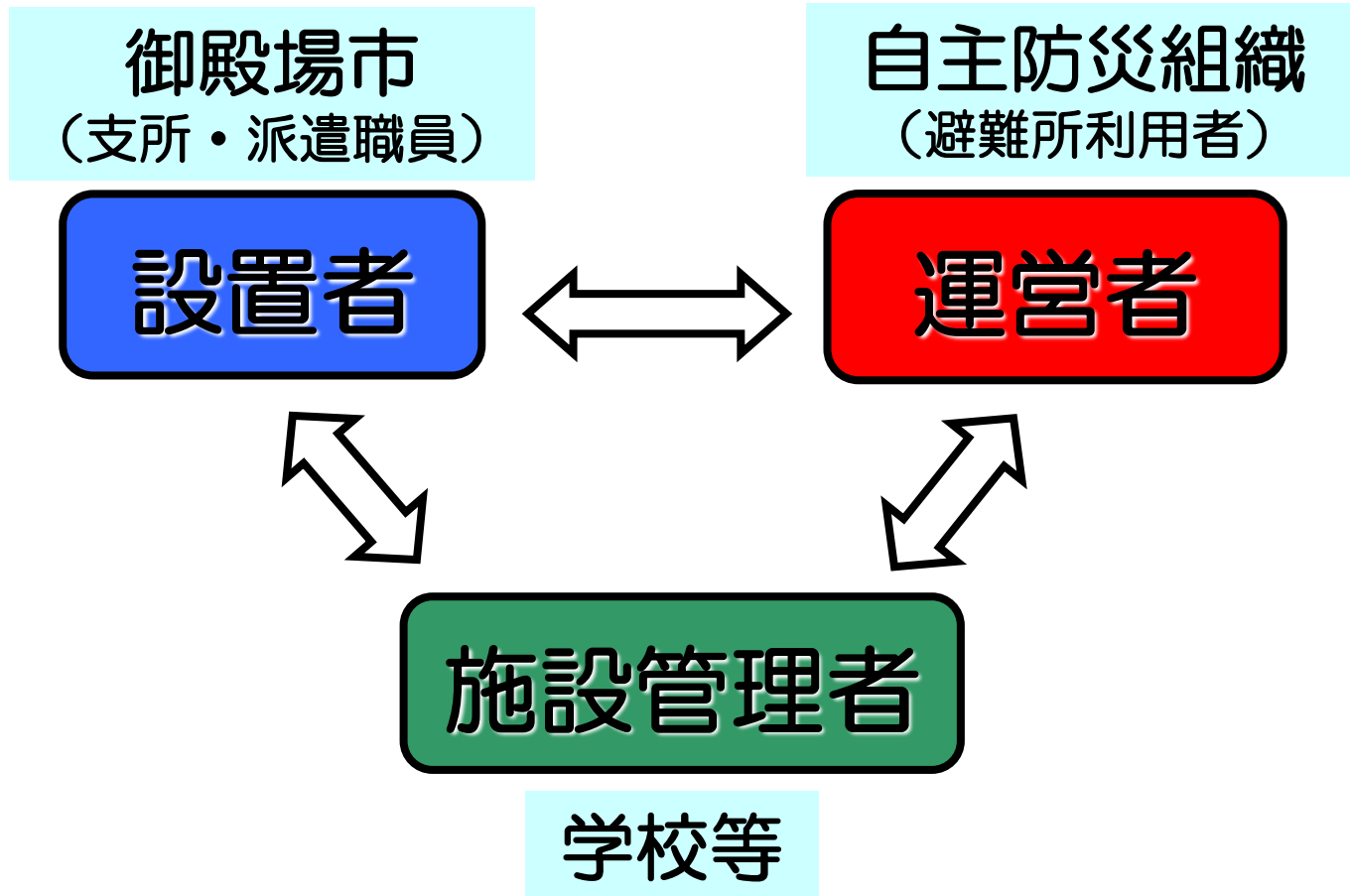
カンパン、アルファ化米、おかゆ、パン、粉ミルク、レトルト食品、惣菜缶詰、サラダ、チョコレート等、豊富な種類が揃っています。



過酷な避難所生活、どう対処するか？



避難所の開設・運営の主体



- ・ **避難所の開設**：設置者である市が、施設管理者である学校等の協力を得て行う。
- ・ **避難所の運営**：自主防災会（立上げ組織） → **避難者自身**による運営組織へ移行

・ 行政職員や施設職員は、避難所運営の協力者として携わり、運営者が依存し過ぎることがないように心がける。→ **避難所のニーズの把握**が重要

利用者主体による避難所運営組織の編成



避難所運営上必要な事項

◇ 避難所運営本部の設置

- ・ **自主防災組織中心**の避難所運営が基本
- ・ 行政職員や施設職員に依存し過ぎない。女性目線での避難所の運営
- ・ ボランティアの力を最大限活用

◇ 各班での活動(役割分担)

① 総務班	運営本部会議の事務局、運営・記録、生活ルールの作成 取材対応、市本部・地域との連携、他班への応援
② 避難者情報班	受付・案内、名簿管理、問い合わせ対応
③ 情報班	情報収集、情報伝達、情報発信
④ 食料・物資班	食料・物資の調達、炊き出し、食料・物資の受入 物資の管理・配給
⑤ 施設管理班	安心・安全な避難所作り、防火・防犯
⑥ 保健・衛生班	感染症対策、トイレ、ごみ、清掃衛生管理、傷病者への支援、 生活用水の確保、ペット取扱い、ごみ、掃除、風呂
⑦ 要配慮者班	要配慮者スペースの確保、相談窓口の設置、授乳所の設置 要配慮者の状況・ニーズ把握、福祉避難所への移送
⑧ ボランティア班	ボランティアニーズの把握、派遣要請、受入
⑨ 警備班	訓練時の安全確保(車両事故防止、歩行者・車両の誘導)

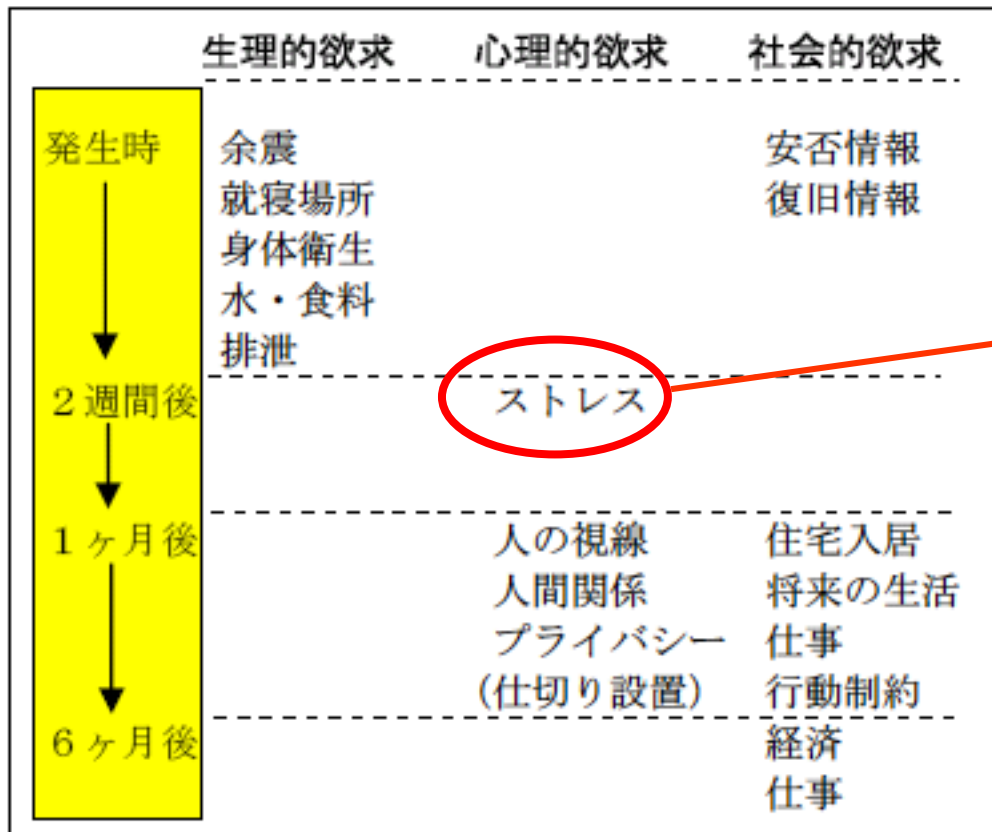
震災における避難所運営業務(その1)

区 分	実 施 項 目	準 備 段 階
市災害 対策本部 支 部	1 避難所設置・管理・運営要領の検討 2 避難所・福祉避難所等指定・協定 3 避難所派遣職員の受入れ要領の確認	1 避難所管理・運用要領（学校・自主防災会等との役割分担）の検討 2 一次避難所、市指定広域避難所（福祉避難所）の指定、協定締結 3 災害対策本部との連携、避難所派遣職員の受入れ・連携要領の確認
学 校	1 災対本部の確立、避難所計画の作成 2 初動体制、管理体制の移行要領	1 災害対策本部の確立、学校避難所計画の作成及び災対本部会議の要領 2 初動対処要領、時間経過に伴う自主防・災対本部（支援班）への移管
自主防会	1 運営本部の確立、運営計画等の作成 2 避難所運営本部の運営要領の検討	1 避難所運営本部の確立、避難所運営計画・避難生活計画書等の作成 2 学校からの引継ぎ、避難所支援班との連携、管理・運営要領の確立
I 運営体制 の確立	① 避難所運営体制の確立 ② 避難所の指定 ③ 初動の具体的な事前想定 ④ 受援体制の確立 ⑤ 在宅避難者対策・帰宅困難者	① 避難所運営要領の検討（避難所立上げ組織、避難所運営組織の編成） ② 第1次避難所、市指定広域避難所の指定 ③ 避難所運営マニュアルの作成・訓練の実施 ④ 食料・物資・ボランティア等の受入、医師・看護師の救護・巡回 ⑤ 在宅避難民の安否確認方法の検討
II 避難所 の運営	⑥ 避難所運営サイクルの確立 ⑦ 情報の取得・管理・共有、発信 ⑧ 食料・物資管理 ⑨ トイレの確保・整理 ⑩ 衛生的な環境の維持 ⑪ 避難者の健康管理 ⑫ 寝床の改善 ⑬ 衣類の確保・配布 ⑭ 入 浴	⑥ 避難所運営の実施手順の確立 ⑦ 衛星携帯等通信手段・電源の確保、避難所掲示板、マスコミ対応 ⑧ 物資供給計画の作成、在宅避難者用物資の配布体制の確保 ⑨ 災害用トイレの確保（運搬）・管理計画、汲み取り業者との協定 ⑩ ゴミ集積場所の設置、食品管理方法・手洗い等健康チェック方法 ⑪ 避難者の健康管理シートの作成、感染症等予防の取組み ⑫ 寝床スペースの確保・配分（要考慮者優先）、毛布・段ボール確保 ⑬ 衣類（下着等）確保・配布要領の検討 ⑭ 入浴施設、ホテル・旅館、保養所等の協定締結
III ニーズへ の対応 ・ IV 避難所 の解消	⑮ 配慮が必要な方への対応 ⑯ 女性・子供への配慮 ⑰ 防犯対策 ⑱ ペットへの対応 ⑲ 避難所の解消に向けての	⑮ 要考慮者の避難所滞在可能性の検討、各福祉避難所施設との協定 ⑯ 女性・妊婦、子供などの避難所生活考慮事項の確認 ⑰ 避難所における防災対策の検討警察との調整 ⑱ ペット飼育管理ルール確立の検討 ⑲ ホテル等の二次避難所の活用検討、ライフライン事業者との連携

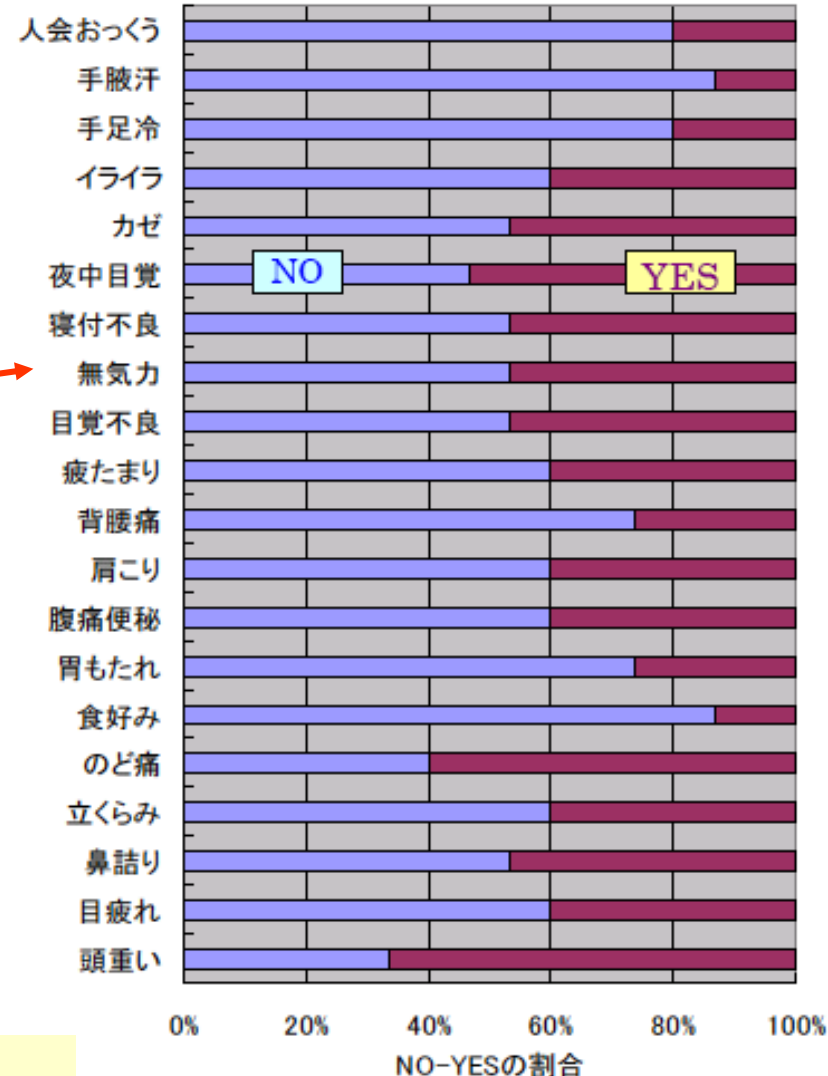
災害時における情報ニーズの変化

段 階	災害発生初期 (発生～2・3日)	静穏期～応急復旧期 (～1週間)	復 旧 期 (～1ヶ月)
情 報 種 別	安全に係る情報	生活の維持に係る情報	生活の再建に係る情報
細 部 情 報	①地震・津波等の情報 ②災害の発生状況 ③応急対策の状況 ④二次災害に関する情報(火災、崖崩れ、建物倒壊) ⑤避難勧告・指示の情報 ⑥安否情報 ⑦応急救護所、医療機関の開設状況 ⑧道路・交通規制情報	①ライフライン情報(電気、ガス、電話、水道、下水道等の被害状況と復旧見込み) ②食料、物資等供給情報 ③風呂、店舗等開業状況 ④鉄道・バス等交通機関の運行、復旧見込み情報 ⑤道路情報 ⑥医療機関の活動情報 ⑦治安情報	①住宅情報(応急仮設住宅、空家あっせん等) ②各種相談窓口の開設情報 ③り災証明書の発行情報 ④税・手数料等の減免措置の状況 ⑤災害援護金等の融資情報等

避難者の欲求の変化とストレス



避難所生活における諸欲求の時間経過に
ともなう顕在化

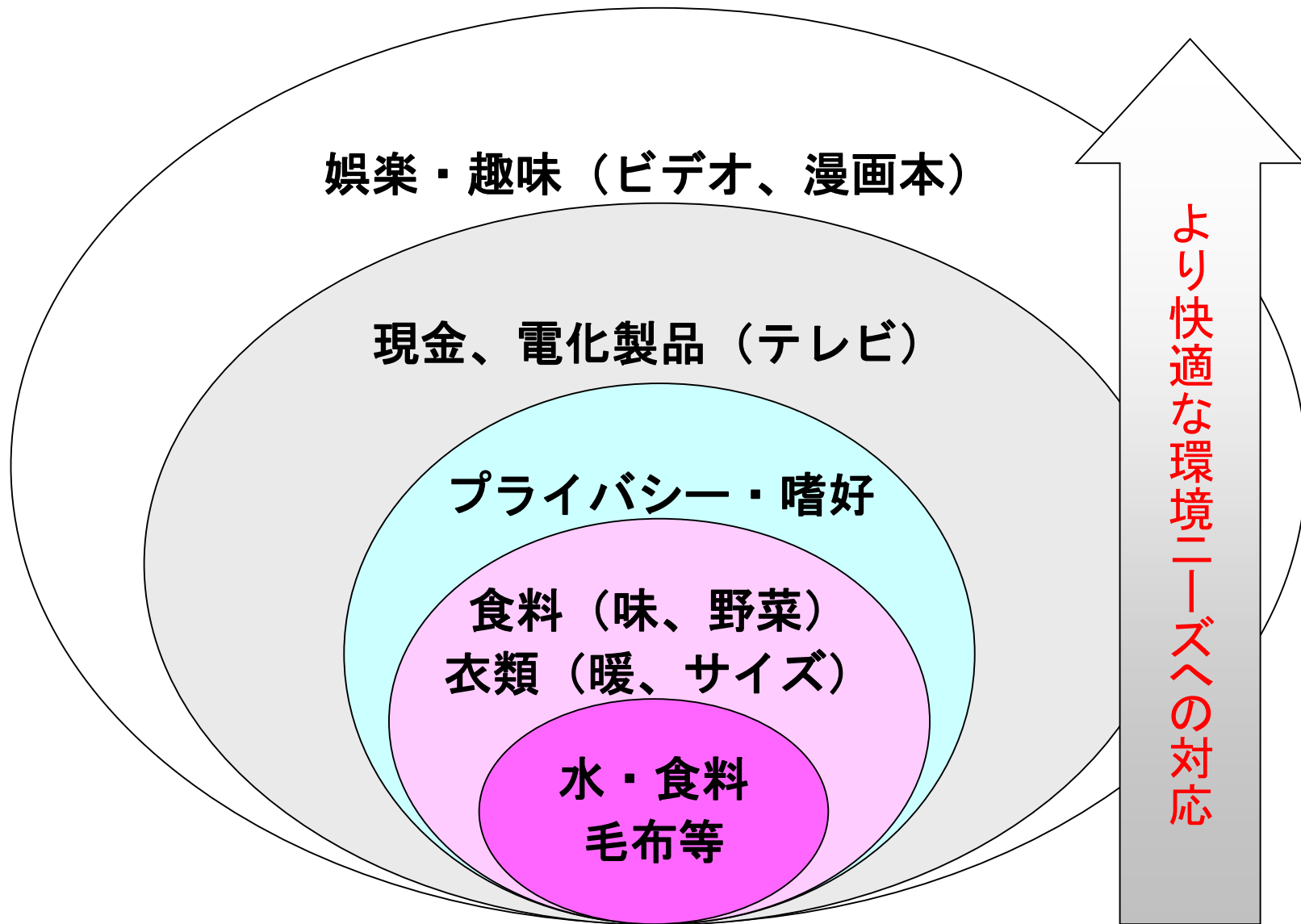


体調・ストレスに関する諸変調の生起状況
(越路西小学校 H16. 11. 3)

◆ マズローの5段階要求:

- 生理的要求(食欲・睡眠欲等)、安心・安全欲
- 社会的要求(衣・住、仕事、将来の生活への不安、経済問題)

被災者（避難所）ニーズの変化



災害関連死を防止する『TKB48』



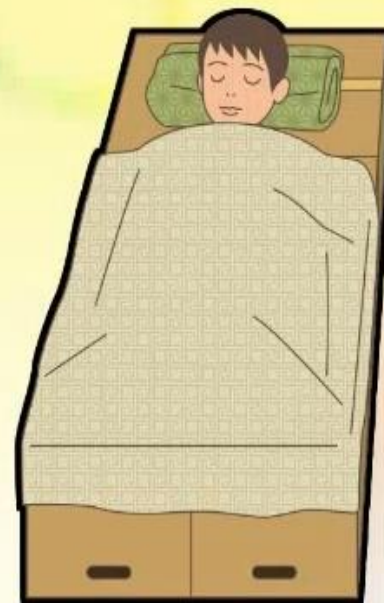
T トイレ

快適で十分な数のトイレ



K キッチン

温かい食事



B ベッド

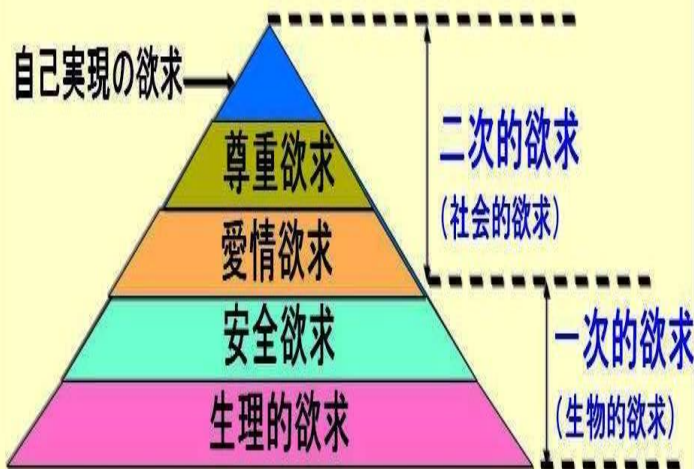
簡易ベッド

マズローの法則



飢餓などの生理的欲求のような低次欲求が満たされて始めて、より高次の欲求を実現していこうとする動機が現れるとし、5つの動機の階層を規定したもの。

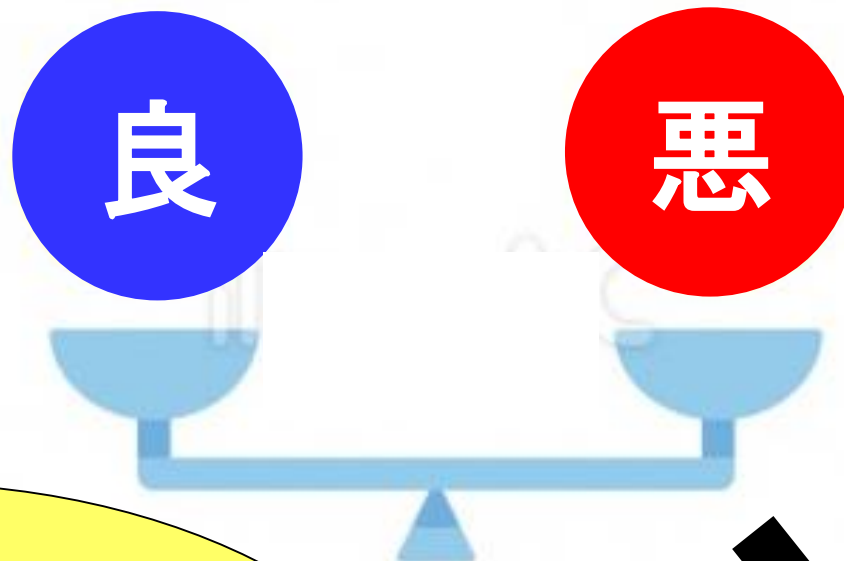
→ **そもそも人間とは理性3分、感情7分の動物である。**



	欲求のレベル	欲 求 の 内 容
社会的 欲 求 (2次)	自己実現欲求	◎自由、個性、楽しみを求める ◎自分自身を充実させる
	評価・承認欲求	◎他者から注目、評価を受けたい
	所属と愛の 欲求	◎自分が属する集団の中で 理解され深く受け入れられたい
生物的 欲求(1次)	安全への欲求	◎安心・安全を求める
	生存への欲求	◎食欲・睡眠欲を癒す

人間の欲求を理解し、これに応えることも支援者として必要

良い避難所・悪い避難所



避難所トップの
リーダーシップ



マクレガーのX・Y理論

X理論

- 1 人間は生まれつき仕事嫌いで、できることならしたくないと考える。
- 2 人間は強制されなければ、組織目標を達成するために力を出さない。
- 3 人は命令するよりもされるほうが好きで、かつ責任を回避しようとする。

性悪説

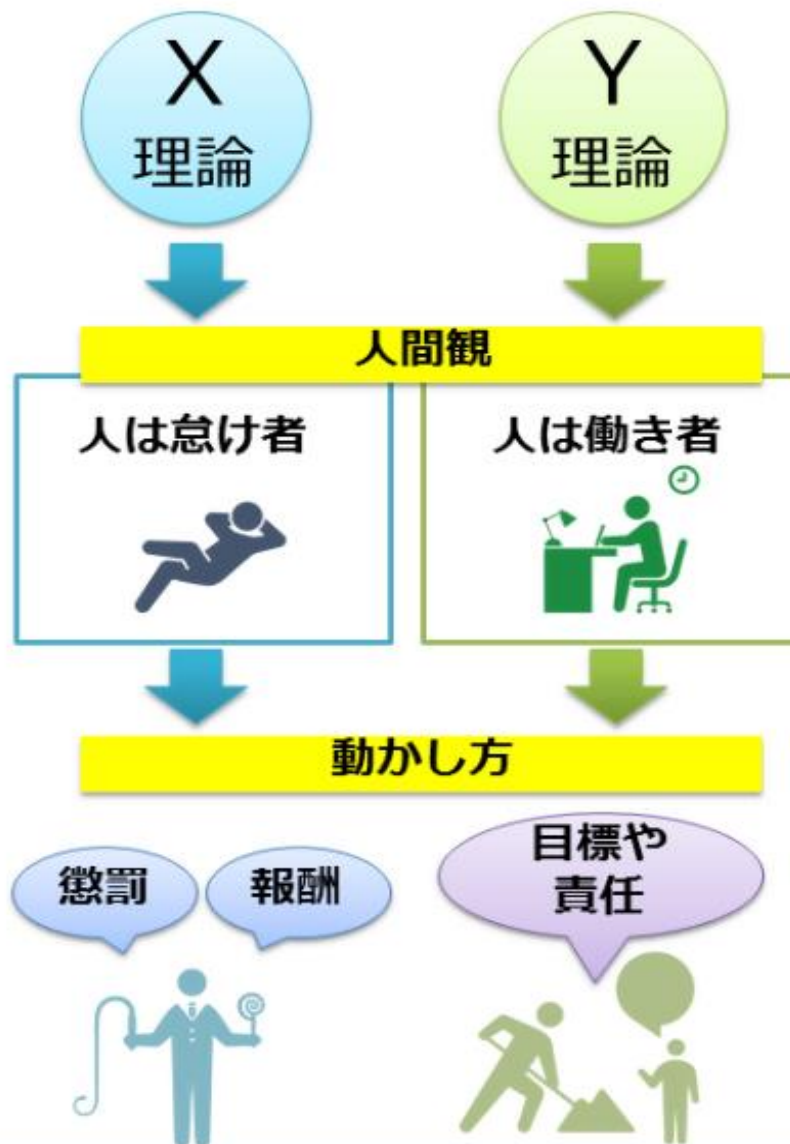


Y理論

- 1 仕事で心身を使うのは人間の本性であり、遊びや休憩の場合と同様である。慈悲の心で人に尽くしたい。
- 2 人間は、自ら求めた目標のためには、自分自身に鞭打って働くものである。
- 3 問題解決のための創造性を発揮して事にあたる能力は、大抵の人に備わっているものである。

性善説

マクレガーのX・Y理論



X理論・Y理論

- 🐾 提唱者はマクレガー
- 🐾 「人間観」を示したもの

X理論

⇒ 人は仕事が嫌い

Y理論

⇒ 人は自発的に働く





説明項目

I 災害現場の調整者として必要な徳操

(被災者と心通じた真心支援)

II 中級陸曹として必要な識能と資質

(自衛官として必要な6大資質:使命感と責任感、統率と指揮)

III 物事に関する視野の拡大

(人生に必要な3つのもの、守るべき宝、人生最大の喜び)

段階的資質と識能の涵養

教育訓練と現場(災害派遣等)で培われた各種能力！

段階的な教育訓練



リーダーに求められる3つのスキル

管理者に求められる3つのスキル

テクニカルスキル
職務を遂行するために必要な専門知識や技術。

ヒューマンスキル
周囲と良好な関係を築き、維持するために必要な能力と技術。

コンセプチュアルスキル
物事を理論的・創造的に考え、その本質を見極めることで、個人や組織の可能性を最大限まで高める能力。

上級陸曹

コンセプチュアル
・スキル

中級陸曹

ヒューマン
・スキル

初級陸曹

テクニカル
・スキル



1 職場のリーダーが職務上遂行具備すべき能力(スキル)

(1)コンセプチュアル・スキル(概念化能力):

物事の全体像を把握・構造化し、本質を見極める能力を指す。問題解決や意思決定を行うための総合的なスキル。問題解決能力、業務改善能力(物事の本質を捉えることにより個人や組織の持つ最大限まで高めることができる能力、正解のない問題の本質を見極め解決する力)

(2)ヒューマン・スキル(対人関係能力・人間理解力):

人間関係を構築する技術を指す。自己を知り相手を知り、効果的な対人影響力を発揮するスキル。

(3)テクニカル・スキル(業務遂行能力・専門能力):

任務を遂行する上で必要な知識や技術を指す。職務・業務にに関する理解と熟練度専門性に関わるスキル。与えられた職務を遂行するために欠かせない専門的技術・技能、技術熟練度(MOS(特技教育):特技に示す能力、事務処理能力、PCスキル、資料作成能力、情報収集力、整備力)

2 ヒューマン・スキルの4要素

(1)コミュニケーションのための意思疎通力(話し方、聞き方、話し合いの進め方、相談の乗り方)

(2)部下のやる気を高める動機付け能力(部下の心情を把握して、褒め・叱り・激励する指導力)

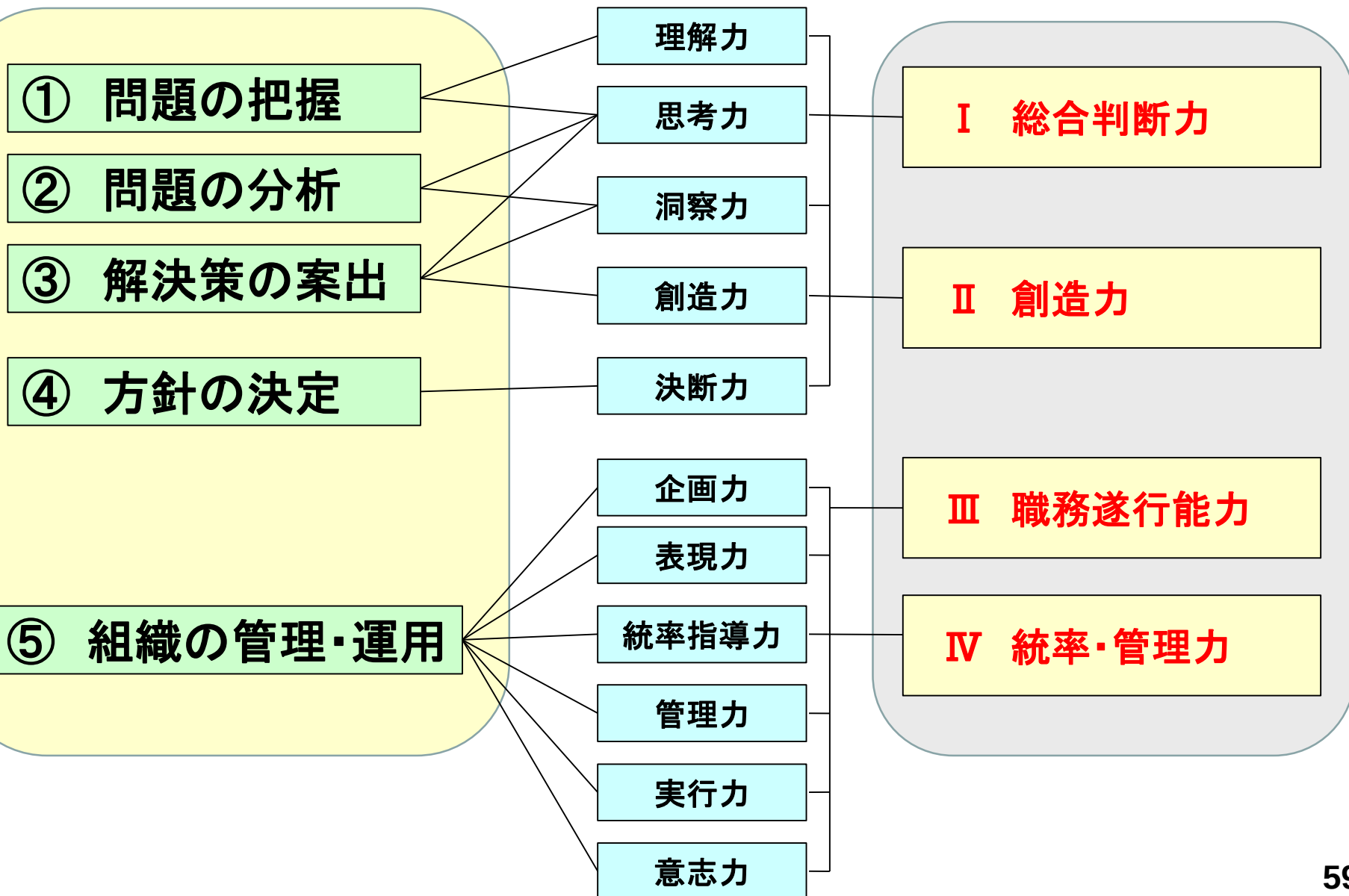
(3)組織全体の力を結集するチームづくり能力(目標、役割・責任の付与、協力関係の構築力)

(4)職場の良い人間関係を作り、みんなの気持ちを和ませる雰囲気環境醸成力(3つのE)」

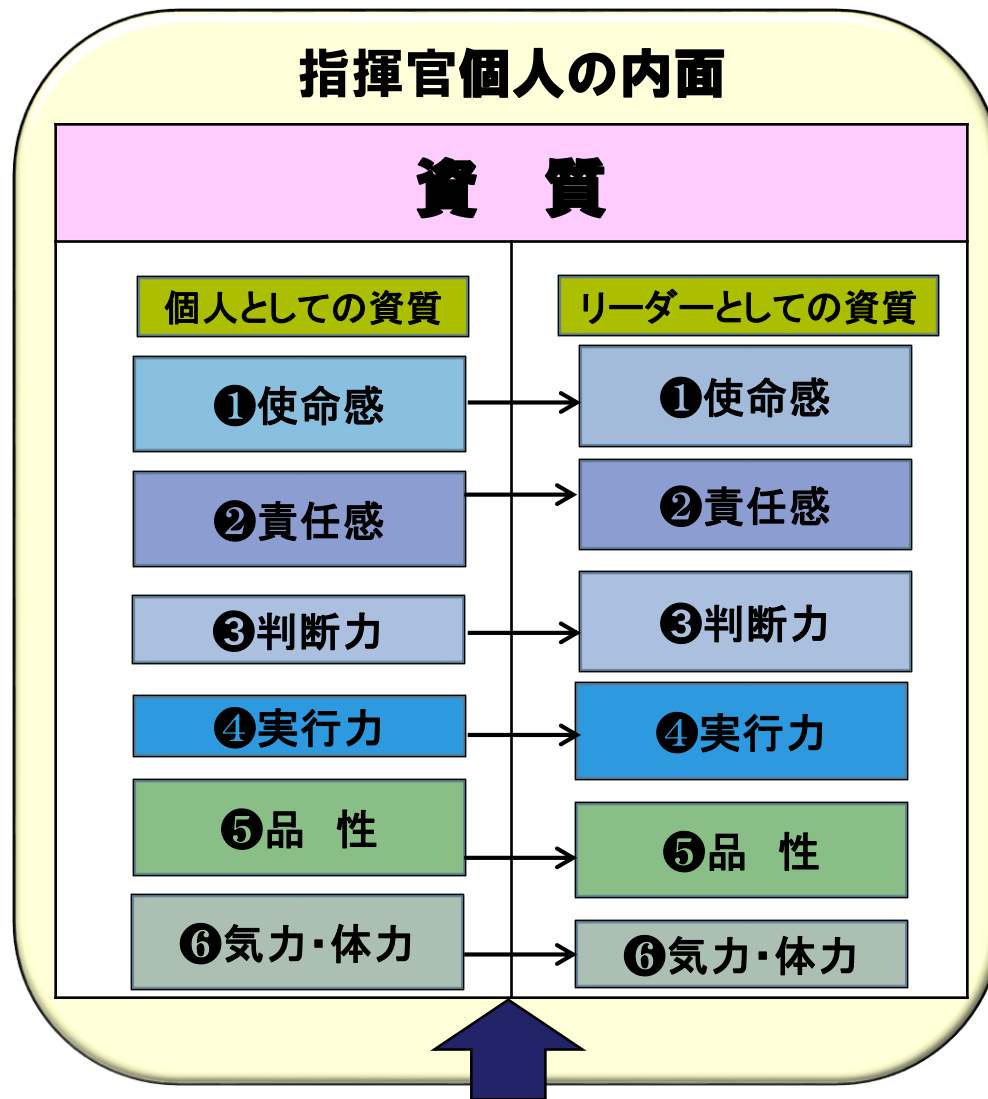
(5)リーダーの人的成長が部下の成長にも大きな影響を及ぼす感化力・影響力

⇒ 「人が育つには人を育てる人がいる。」

問題解決能力と知的資質の関係



幹部候補生学校の『6大資質』



識 能

戦術、戦史、**戦闘訓練**、**特技(MOS)**、防衛教養、防衛基礎学等

自衛官の心構え

1 使命の自覚

- (1) 祖先より受けつぎ、これを充実発展せしめて次の世代に伝える日本の国、その国民と国土を外部の侵略から守る。
- (2) 自由と責任の上に築かれる国民生活の平和と秩序を守る。

2 個人の充実

- (1) 積極的でかたよりのない立派な社会人としての性格の形成に努め、正しい判断力を養う。
- (2) 知性、自発率先、信頼性及び体力等の諸要素について、調和の取れた個性を伸展する。

3 責任の遂行

- (1) 勇気と忍耐をもって、責任の命ずるところ、身をていして任務を遂行する。
- (2) 僚友互いに真愛の情をもって結び、公に奉ずる心を基とし、その持場を守り抜く。

4 規律の厳守

- (1) 規律を部隊の生命とし、法令の遵守と命令に対する服従は、誠実厳正に行なう。
- (2) 命令を適切にするとともに、自覚に基づく積極的な服従の習性を育成する。

5 団結の強化

- (1) 卓越した統率と情味ある結合のなかに、苦難と試練に耐える集団としての確信を培う。
- (2) 陸、海、空、心を一にして精強に励み、祖国と民族の存立のため、全力をつくしてその負託に答える。

使命感と責任感

1 使命感

組織からの重要なミッション(任務)や自分で目標設定したことなどについて、**責任を持って最後までやり遂げる意識、気概**

2 責任感

組織から与えられた任務を最後まで全うしようとする気持ち、**立場上、負わなければならない任務や義務**

3 使命感と責任感との違い

責任感と使命感の違いは、「受動的か、能動的か」

誰かに与えられたものは、「責任」、自分で作り出すものが「使命」

どちらも組織の中で働くために欠かせないものであるが、与えられたものでも自らがその任務を理解し、「よし、俺がやってやろう！」と感じた瞬間に責任感から使命感にその感覚は変わる。⇒『**使命の自覚**』

統率の意義・機能

- 1 リーダーシップと統率の違い
- 2 統率の意義
- 3 統率の機能
 - (1) 指揮
 - (2) 統御
 - (3) 管理

リーダーシップと統率の違い

陸上自衛隊において
指揮官の行為は、「統率」を広く一般的に使用



1 リーダーシップ

主体は、組織におけるトップのみならず、
組織のあらゆる長たる隊員（連隊長・中隊長
・小隊長・班長など）を含む。

2 統 率

主体は、「指揮官（中隊長以上）」に限定

→ 指揮権・人事権などの権限を持つ長

三・将の特徴・性格

A 武将 『鳴かぬなら殺してしまえホトトギス』

B 武将 『鳴かぬなら鳴かしてみせようホトトギス』

C 武将 『鳴かぬなら鳴くまで待とうホトトギス』

徳川家康

忍耐



織田信長

短気



豊臣秀吉

工夫



統率の意義



統率は、指揮官が任務達成のため、
指揮下部隊を**統(す)べ率いていく**
総合的な行為である。

統率の意義



指揮官が部隊に適切な目標を与え、
部隊を構成する各隊員を充実・向上させ、
その**総力を結集・発揮**させることである。

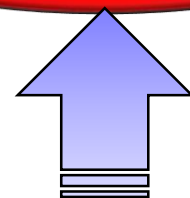
統率は、**指揮を基本とし、統御及び管理を
総合した形において発揮**される。

重要

統率の機能



任務の達成



統 率

指 揮

統 御

管 理

統御は、部隊及び隊員をして上下一体となって、その任務を忠実かつ積極的に遂行し得るよう感化を与え、その能力を最高度に発揮させること。

指揮は、指揮官が指揮権に基づき、部隊又は個人に対して意志を表示し、その意志に従わせること。

管理は、指揮官が、人・物・金・時間・場所等を適切に運用し、隊務の効率化を推進すること。

統率は、任務達成のため、環境を整え(管理)、人心に感化を与え(統御)、組織を動かすこと(指揮)

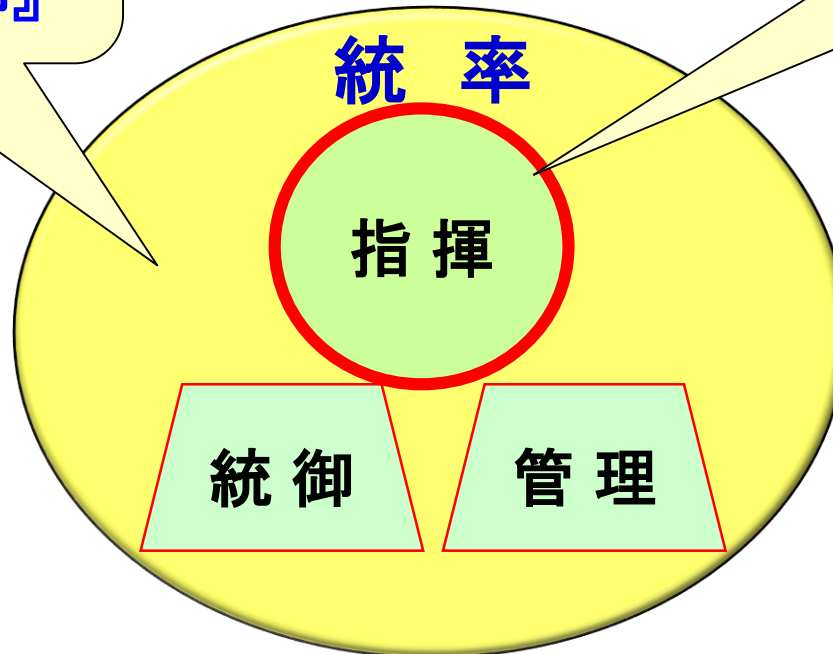
指揮の機能



任務の達成

『指揮』があって、
これを支えるのが
『管理』と『統御』

指揮は、指揮官が指揮権に
基づき、部隊又は個人に対し
て意志を表示し、その意志に
従わせること。



指揮の機能を基本とし、これを有効に発揮させる統御及び管理の機能

重要

指揮の意義



指揮官が**指揮権**に基づき、部隊又は個人に対して
意志を表示し、その意志に従わせることである。
指揮の機能は、指揮官が任務を達成するため、
状況を判断し、**決心し命令を下す**ことによって
部隊を**実際に活動させる形で作用**する。

強制力

重要

指揮の手順



指揮は、「状況判断」、「決心」、「命令」及び「監督」の四段階

◆ 第1段階「状況判断」

与えられた状況における「**最良の行動方針**」を考える。
常に「**我々は今、何をすべきか**」を絶えず考え、最良の方策を考える。

◆ 第2段階「決心」

「**我々はこうする！**」と実行を伴う意思決定を適時行う。
決心は指揮作用の根源である。（長の責務は「決心すること」）

◆ 第3段階「命令」

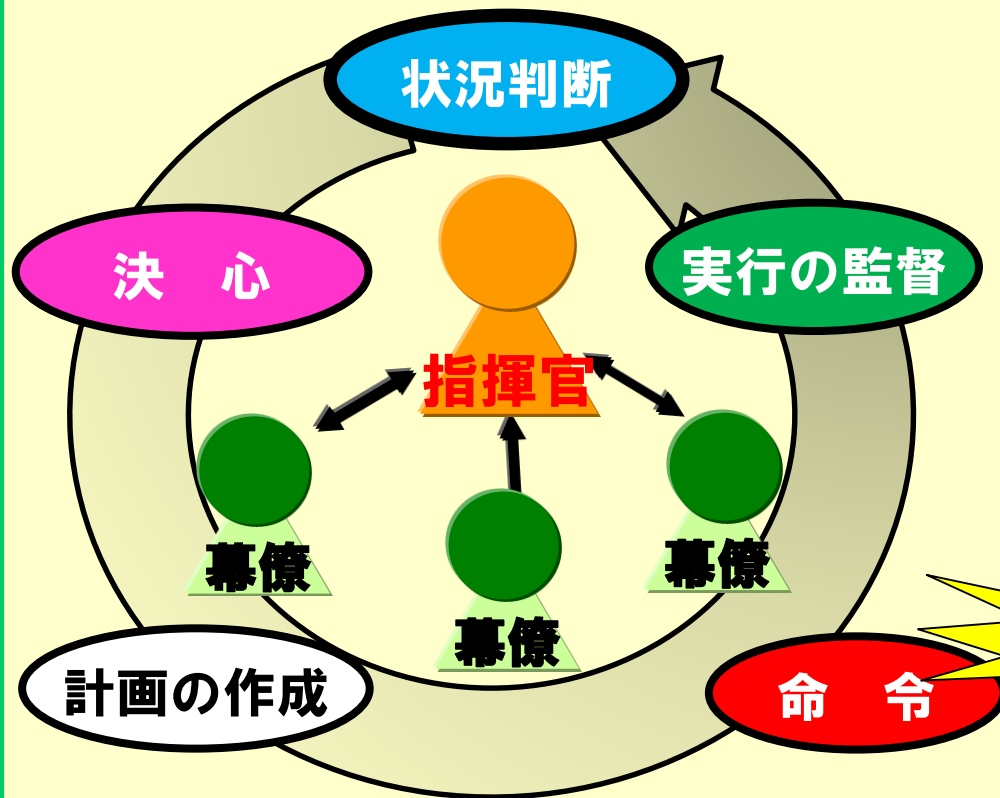
「**君と僕、我はどうする、君たちは、メシはまだか、指揮通信**」
決心に基づきこれを**命令によって**適時適切に**意志表示**し、
決心の実行を命ずるもの。（計画に基づく命令の作成）

◆ 第4段階「監督」

命令の**実行を監督**する。

指揮と実動の関係

部隊指揮



意志を示し、実行を明示、従わせる。

実動



計画・
命令の
実行

強制力

命令に基づく任務の遂行

重 要

指揮のコツ



『指揮の要訣』

指揮の要訣は、指揮下部隊を確実に掌握し、
明確の企図の下に適時適切な命令を与えてその行動を律し、
もって指揮下部隊をしてその任務達成に邁進させるにある。

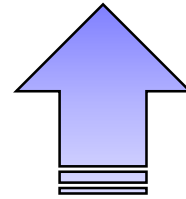
この際、指揮下部隊に対する統制を必要最小限にし、
自主裁量の余地を与えることに留意しなければならない。

指揮下部隊の掌握を確実にするためには、
良好な統御、確実な現況の把握及び実行の監督は、
特に重要である。

統御の機能



任務の達成



統 率

指 揮

統 御

管 理

統御は、部隊及び隊員をして上下一体となって、その任務を忠実かつ積極的に遂行し得るよう感化を与え、その能力を最高度に発揮させること。

『統御』は、簡単に言えば部下を感化させること、良い方向に導くこと

指揮の機能を基本とし、これを有効に発揮させる統御及び管理の機能

重要

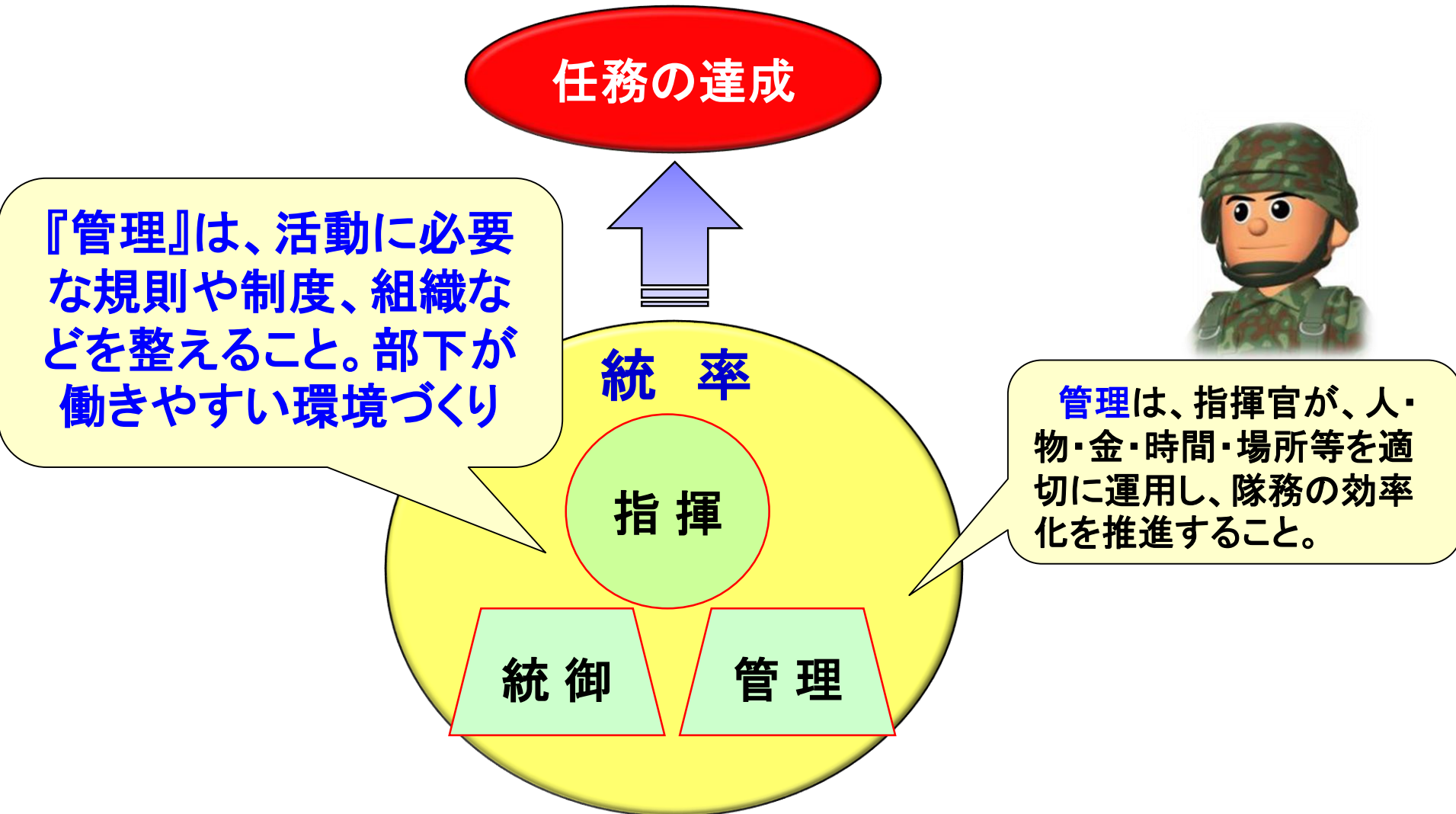
統御の意義



統御は、部下の忠誠心を高め、
厳正な規律、旺盛な士気、強固な団結により、
自主積極的に任務を遂行するよう
感化を与えること。

統御は、組織内の各個人に全能力を発揮して
指揮されようとする気持ちを起こさせる
心理工作であり、部下を心服させること
→「部下のやる気を起こさせる行為」

管理の機能



指揮の機能を基本とし、これを有効に発揮させる統御及び管理の機能

管理の意義



指揮官が、人・物・時間・場所・情報等を適切に運用し、**隊務の効率化を促進**して任務を達成すること。

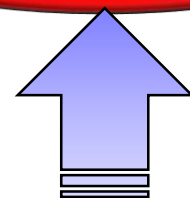
環境条件を改善することによって
指揮・統御を有効ならしめるように作用する
→ 人事、教育訓練などの制度・管理

重要

統率の機能



任務の達成



統 率

指 揮

統 御

管 理

統御は、部隊及び隊員をして上下一体となって、その任務を忠実かつ積極的に遂行し得るよう感化を与え、その能力を最高度に発揮させること。

指揮は、指揮官が指揮権に基づき、部隊又は個人に対して意志を表示し、その意志に従わせること。

管理は、指揮官が、人・物・金・時間・場所等を適切に運用し、隊務の効率化を推進すること。

統率は、任務達成のため、環境を整え(管理)、人心に感化を与え(統御)、組織を動かすこと(指揮)

『リーダーが持つべき五つの顔』

リーダーは、
哲学者、戦略家、心理学者、教育者、演出家
の五つの顔を持つべきです。

そして、部下を率いる際、
それぞれのケースで、それぞれの顔を発揮して、
みんなの力を引き出していくのが理想です。

『リーダーが持つべき五つの顔』

リーダーが持つべき「五つの顔」を自分なりに咀嚼(そしゃく)・具体化してみると、

- ◆ 哲学者の顔: 任務・職務を遂行する際、部下に対して何のために(目的)、どのような考え方(理念)で実施するのかを理解させ、強い使命感を確立させること。
- ◆ 戦略家の顔: 部下の性格・能力を把握し、人・物・金・時間等を総合的に運用して、最善の環境を整え、先見洞察力をもって部下を善導すること。
- ◆ 心理学者の顔: 部隊は生き物、人の心はコロコロ。隊員の微妙な心の動き、些細な行動を見落とすことなくその心理を捉え、全能力を発揮させること。
- ◆ 教育者の顔: 組織にとって最も大切な人材育成。陸上自衛隊の将来の財産となる隊員を中期的視野に立ち、深き教育愛と漲(みなぎ)る情熱をもって育てること。
- ◆ 演出家の顔: 人は感動により心動き自ら行動する。豊かな感性と創意溢れる閃(ひらめ)きによる最高の演出により舞台を創り、部下を生き活きと躍動させること。

伝達・7掛けの法則



師団長の思い、
⇒ 連隊長に通じるのは7割

連隊長の思い、
⇒ 中隊長に通じるのは7割



中隊長の思い、
⇒ 小隊長に通じるのは7割



小隊長の思い、
⇒ 班長に通じるのは7割

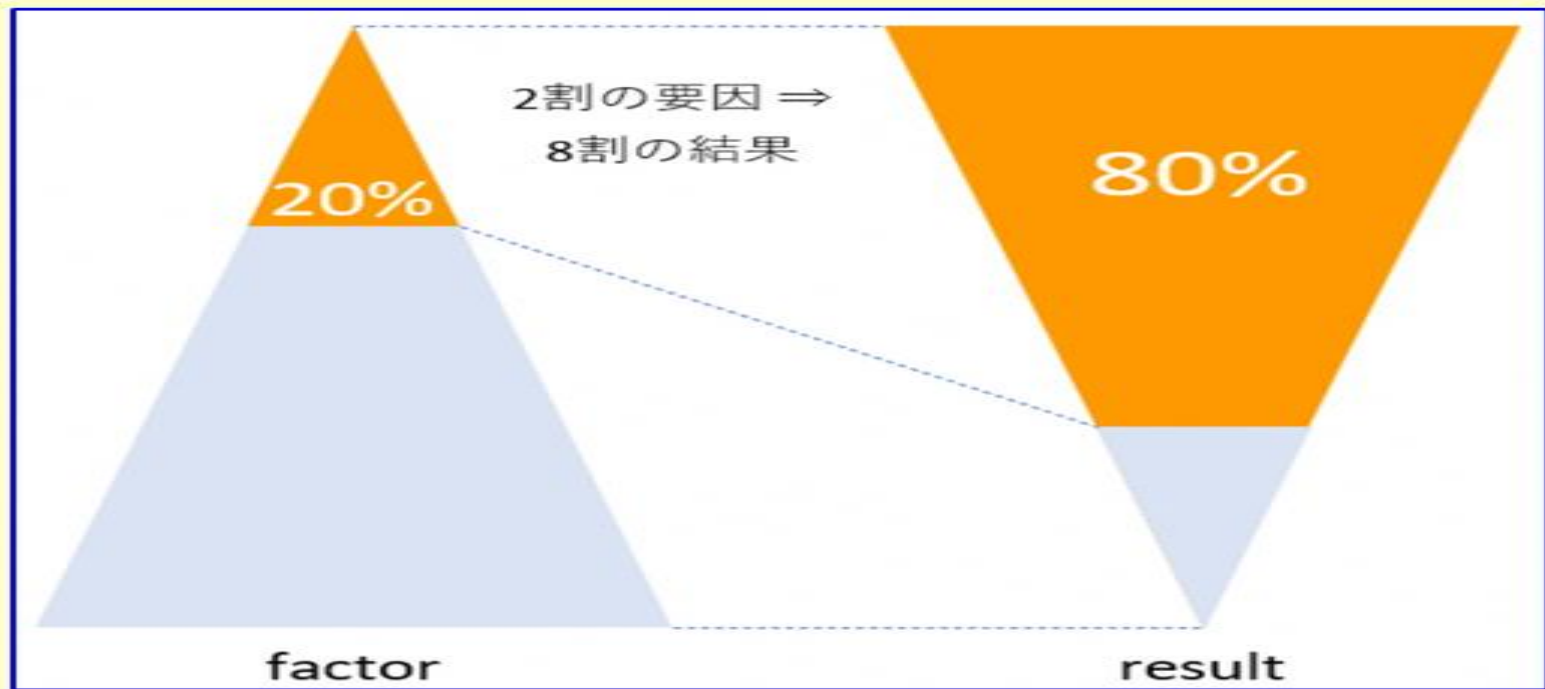


$$0.7 \times 0.7 \times 0.7 \times 0.7 = 0.24$$

24, 0%

パレート(20:80)の法則

仕事・学習の成果の8割は、



信頼される上司とは？

- **仕事の運営能力**が非常に優れている上司
- 明確な信念と自信に基づく**指揮能力**
- **指導教導能力**、後継者の育成を**丁寧**かつよくやってくれる人
- **率先した統率力、責任感**
- **人間味、思いやり**のある人物

理想のリーダーになるためには

- 1 豊富な知識 ・ ・ ・ 勉強「自学研鑽」
- 2 明確な企図、筋の通った指導 ・ ・ ・ 任務分析、論理的思考
- 3 責任感
・ ・ ・ 俺がやらなきゃ誰がやる。すべての責任は私
- 4 熱意、行動力、積極的
・ ・ ・ やれない理由を考えるより、やる方策を考える
- 5 包容力、器の大きさ、人情味 ・ ・ ・ 日々修養、忍の一字
- 6 緻密・論理的 ・ ・ 単なる思い付き、根拠のない直感の排除
- 7 部下の仕事の尊重 ・ ・ モチベーション、やる気を持たせる
- 8 部下に対する思いやり ・ ・ ・ 部下も感情がある
- 9 部下とのコミュニケーション ・ ・ ・ ノコミュニケーションも
- 10 格好いい ・ ・ ・ 服装・態度

重 要

組織の価値とは

組織の価値は
その組織に自分が尊敬できる人
信頼できる人
苦楽を共にできる人
共に戦える隊員が
どれだけいるか
その割合で決まる！

『ライクからラブへ、ラブからリスペクトへ』

説明項目

I 災害現場の調整者として必要な徳操

(被災者と心通じた真心支援)

II 中級陸曹としての使命感の涵養

(自衛官として必要な6大資質:使命感と責任感、統率と指揮)

III 物事に関する視野の拡大

(人生に必要な3つのもの、守るべき宝、人生最大の喜び)

広い視野を

持ちましょう！



3つの目による観察力

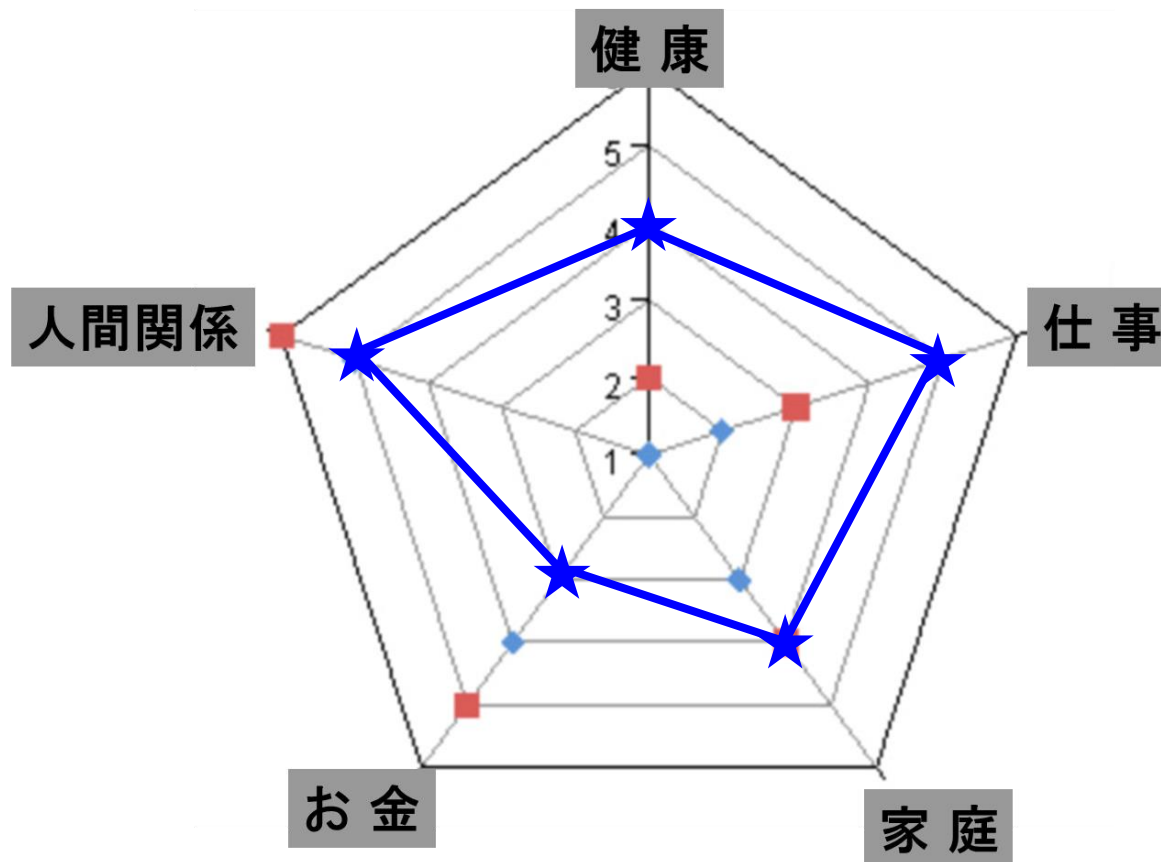
- ◎ 鳥の目：幅広い視野
- ◎ 虫の目：きめ細やかさ
- ◎ 魚の目：潮の流れ



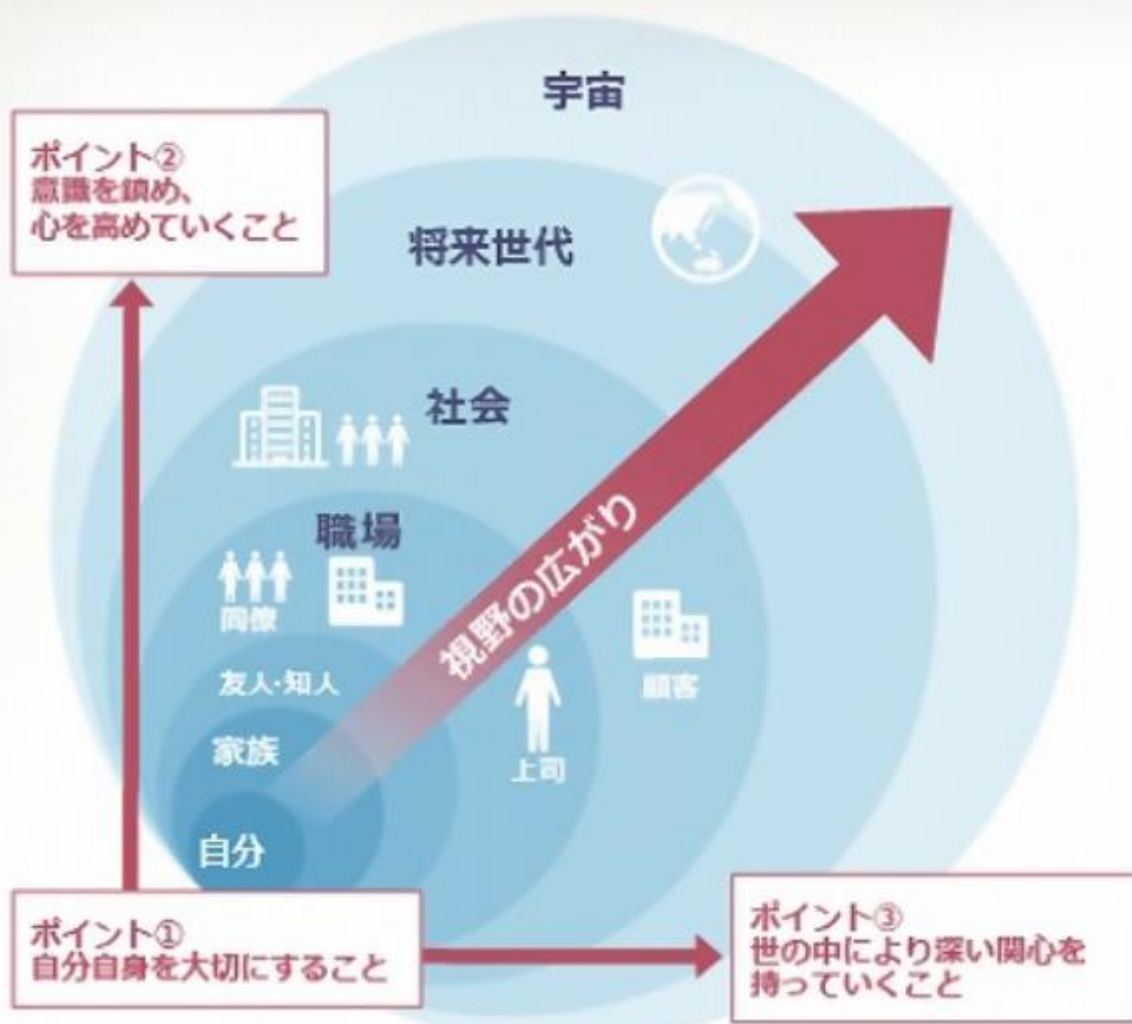
観察力を高める

→ 人を取巻く環境をいかに自制するか？

①健康 ②仕事 ③家庭 ④人間関係 ⑤お金



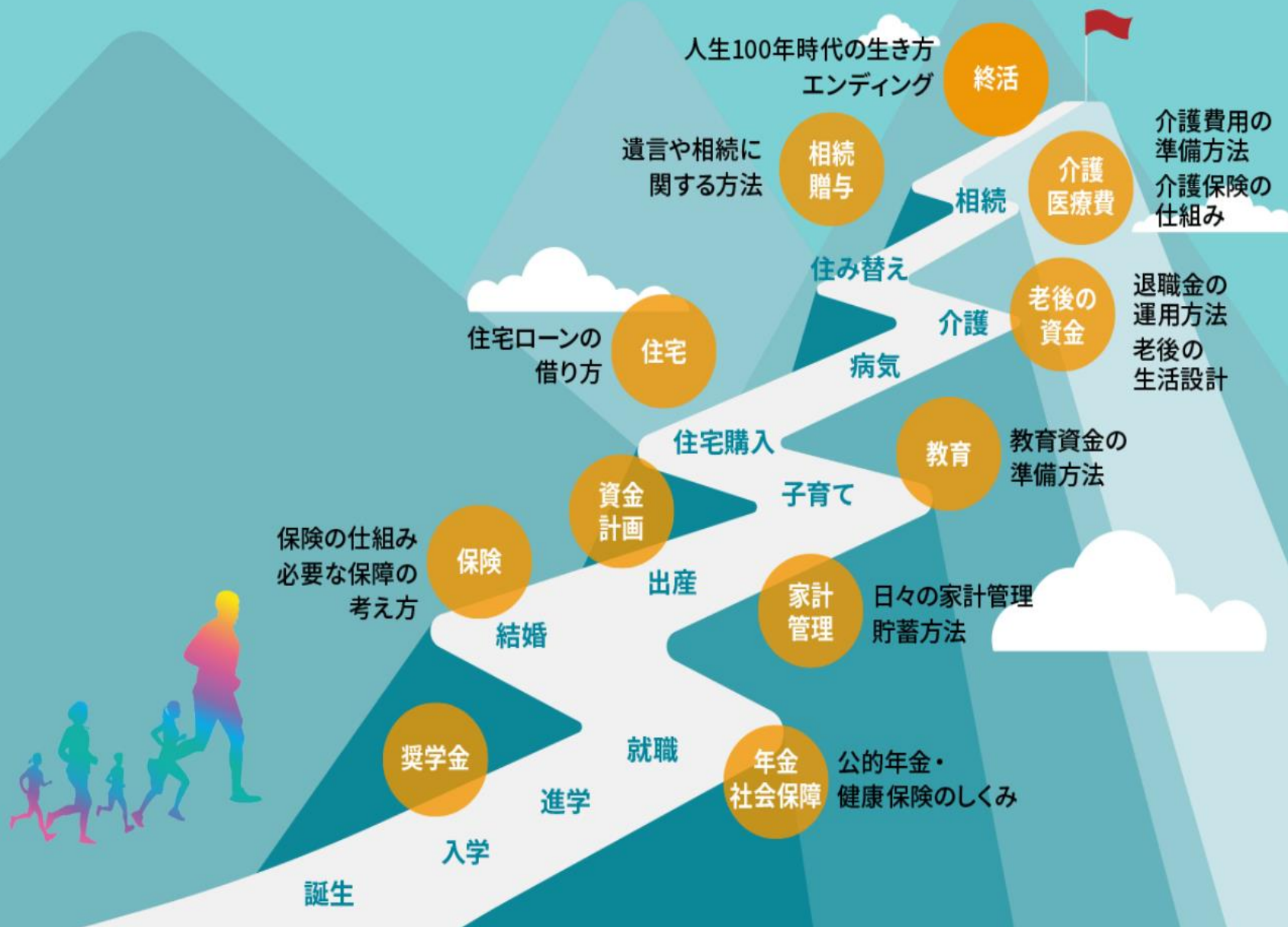
人生の視野を広める！



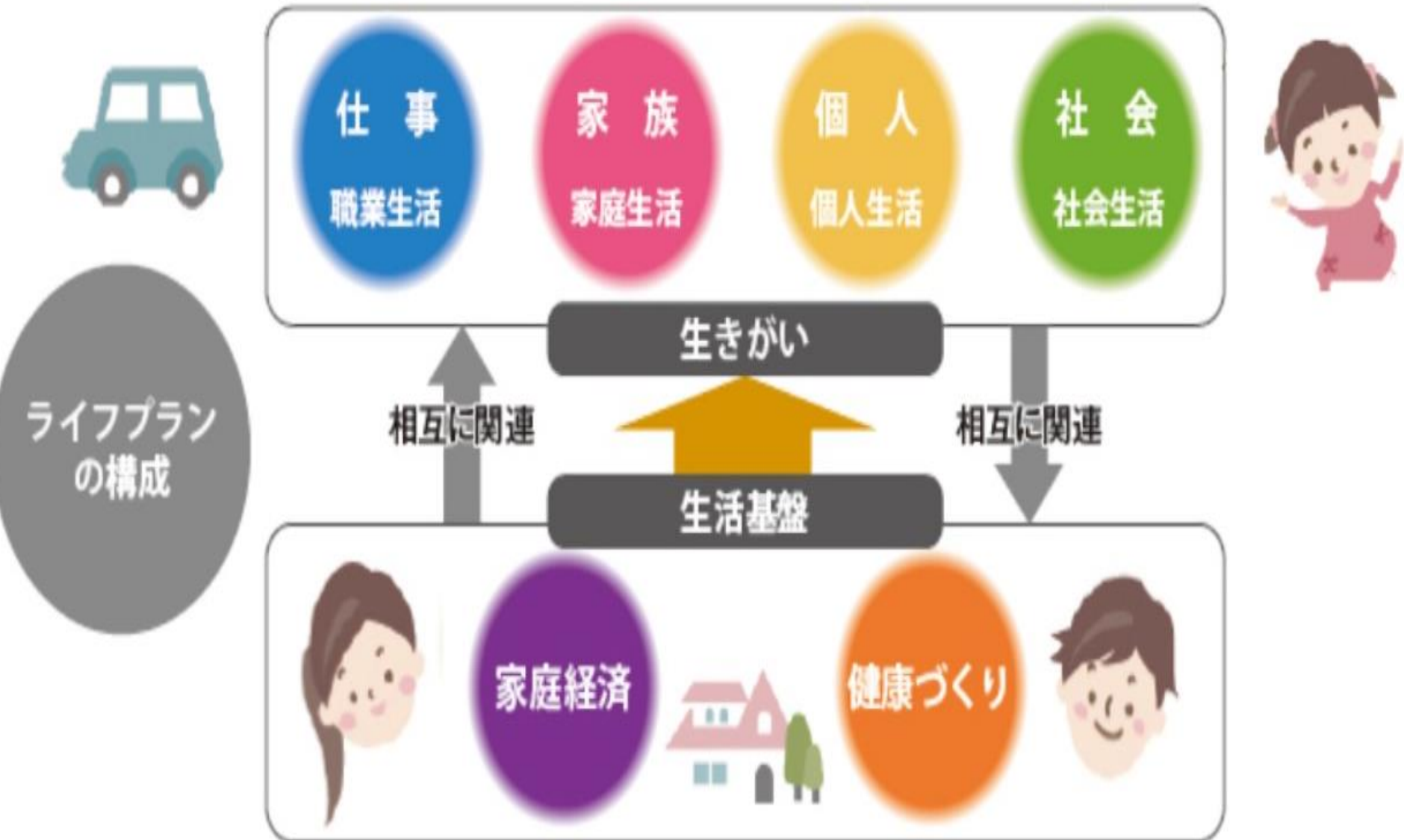
視野の広がり

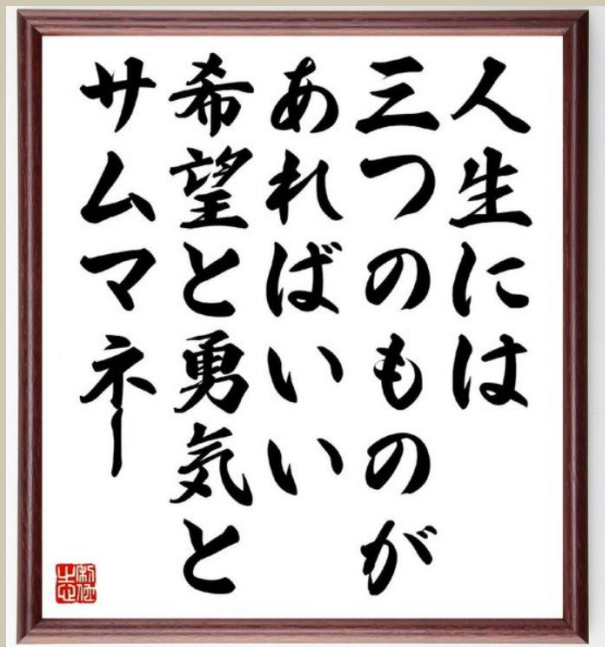


人生100年時代をどう生きる？



人生で大切なものは何か？

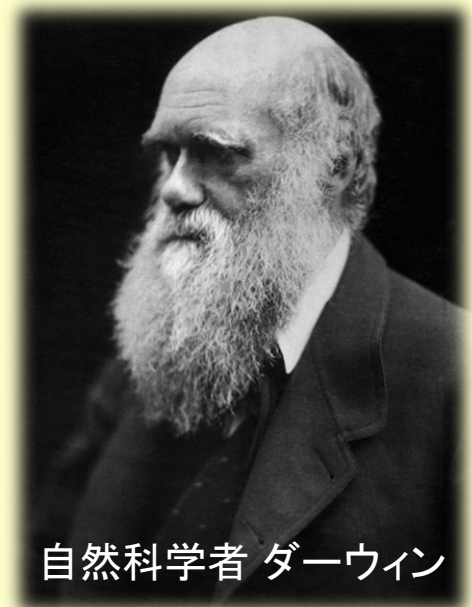




最後に生き残れる者は誰か？

『最も強い者だけが生き残るのではなく、
最も賢い者だけが生き残れるのではない。』

**唯一生き残れるのは
変化できる者である。』**



自然科学者 ダーウィン

総合的学問(サイエンス)体系 ～『一生勉強』～

『人間の存在そのものと精神を表す文化』を研究する専門分野

人文科学

歴史学・地理学・心理学
文学・倫理学 など

『人間の存在と関係性の高い社会』
を研究する専門分野

社会科学

法学・政治学・
経済学・社会学
など

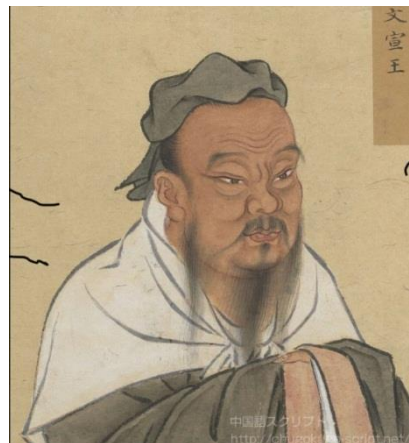
『人間存在の根源である自然』
を研究する専門分野

哲学

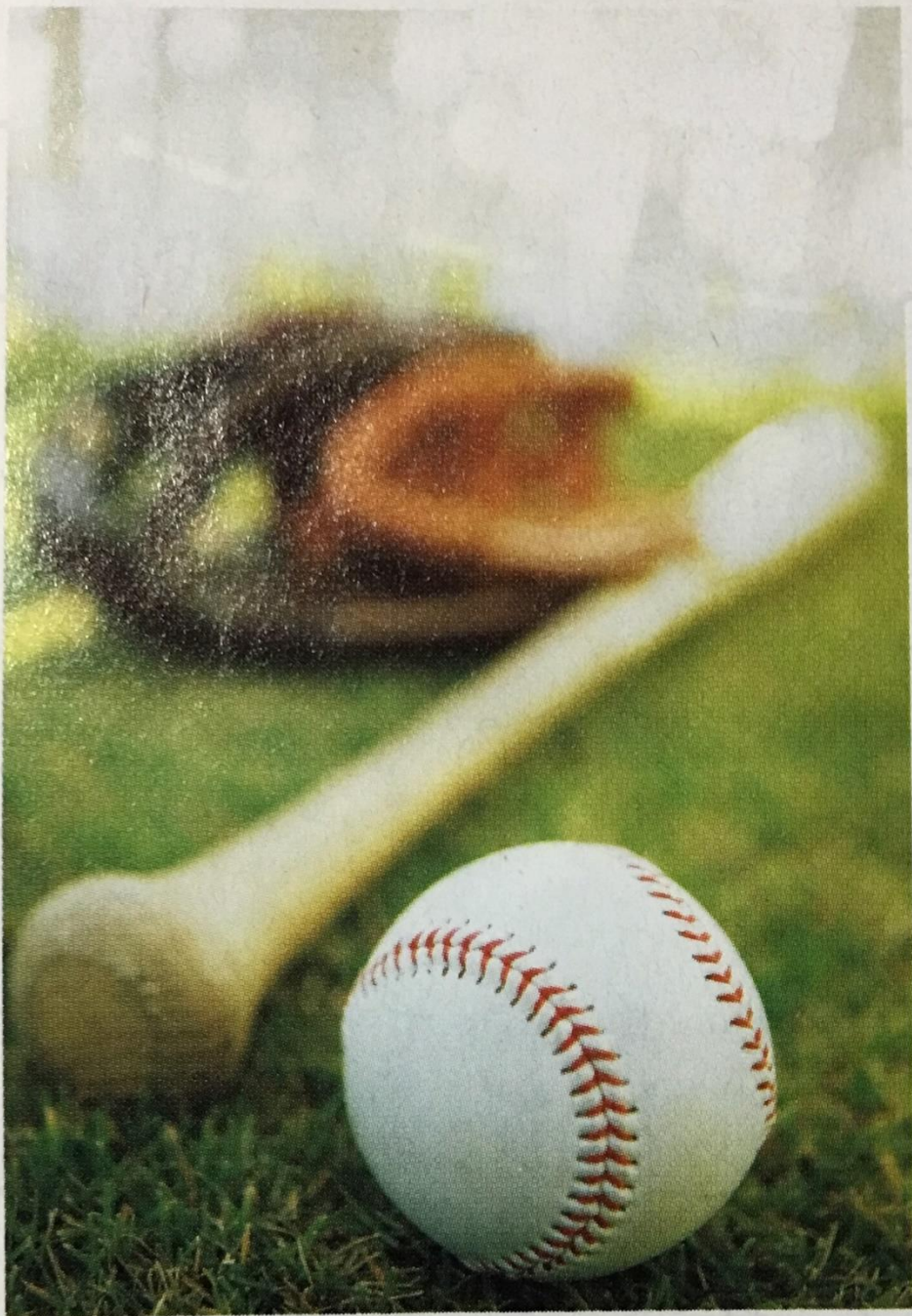
自然科学

医学・薬学・獣医学
農学・工学 など

之を知る者は、之を好む者に如かず
之を好む者は、之を楽しむ者に如かず
『論語』 孔子



人生は出会いでできている



重 要

人生最大の喜びとは

『人生最大の喜びは再会である』

苦楽を共にした友、
強い信頼とお互いへの尊敬の念で結ばれた仲間、
共通の話題を語れる同僚との再会、
10年後・20年・30年後の再会が
人生最高の喜びとなるよう
今を生きる！

澄み渡る

九十九島の西海を

望みて誓う

佐世保人との再会

とも

平成二十九年三月二十三日

西部方面混成団長兼ねて相浦駐屯地司令

陸将補 杉 本 嘉 章

『縁・恩・運』

「縁」を大切に、「恩」を感じて恩返し、やがて空から「運」が降る！



خاتمة مشاريع اليابان لإعادة اعمار العراق في شهر حزيران 2004 .

部隊勤務

楽しく・明るく・さわやかに！



365日の紙飛行機

365日の紙飛行機

作詞：秋元康

朝の空を見上げて 今日という一日が
笑顔でいられるように そっとお願いした

時には雨も降って 涙も溢れるけど
思い通りにならない日は 明日 頑張ろう

ずっと見てる夢は 私がもう一人いて
やりたいこと 好きなように 自由にできる夢

人生は紙飛行機 願い乗せて飛んで行くよ
風の中を力の限り ただ進むだけ
その距離を競うより どう飛んだか どこを飛んだのか
それが一番 大切なんだ
さあ 心のままに 365日

星はいくつ見えるか 何も見えない夜か
元気が出ない そんな時は 誰かと話そう

人は思うよりも 一人ぼっちじゃないんだ
すぐそばのやさしさに 気づかずにいるだけ

人生は紙飛行機 愛を乗せて飛んでいるよ
自信持って広げる羽根を みんなが見上げる
折り方を知らなくても いつのまにか飛ばせるようになる
それが希望 推進力だ
ああ 楽しくやろう 365日

人生は紙飛行機 願い乗せて飛んで行くよ
風の中を力の限り ただ進むだけ
その距離を競うより どう飛んだか どこを飛んだのか
それが一番 大切なんだ さあ 心のままに 365日
飛んで行け！ 飛んでみよう！
飛んで行け！ 飛んでみよう！
飛んで行け！ 飛んでみよう！



Q & A

A woman with short dark hair, wearing a green and brown camouflage military uniform, is smiling and holding a young child. The child is wearing a red t-shirt with a colorful graphic. They are standing in front of a blue fabric backdrop with white floral patterns. The scene is brightly lit, suggesting outdoor daylight.

やれることはすべてやったし、手を抜いたことは一度もありません。
常にやれることをやろうとした自分がいたこと、それに対して準備ができた
ことを誇りに思っています。